明治四十一年八月十五日發行
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

明治の女子第五巻第七 綠陰清風號

明治四十一年八月十五日發行

是故に我等召されてキリストの使者となれり。我等キリストに代りて汝等が神に和かんことを明晳に布ふ。　哥林多後書五、二十

明治の女子

「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。

「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。

日本基督教女子青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。

日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　エム、エ、ホイツトマン
副委員長　岡見惠子
記録書記　エ、ジー、ルイス
會計　フィシヤー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員

津田梅子　渡部瀧子
エビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　井深花子

地方在住委員

大坂　ケー、ツリスツラム　京都　松田道子
京都　ジ、エス、フエルプス　仙臺　エル、ザフルー
名古屋　イ、エム、ソーパル　廣島　エヌ、ジー、ゲインス
日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エス、シー、フキツシヤー

明治四十一年八月十三日印刷
明治四十一年八月十五日發行

東京市麴町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人　エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三秀舍

日本基督教女子青年會の事に付き御尋ねの節は東京麴町區土手三番町十五番地同會事務所宛にし御尋相成度候

神を愛せよ

いともふかき主のあい
聖書(みふみ)よみてしりけり
そのみをたまひし
ちゝのみかみたふとし。

(近　折)

たふとしや主のあい
主のあいたふとし
なつかしやエスきみ
きみなつかし。

まよひ出てみもとを
はなれしをもとがめず
まねき給ふわが主よ
いまはわれもかへらなむ。

さかえの主をあふぐ日
うた心のなき身も
かくばかりはうたはなん
「主の愛こそたえなれ」

友といふ友は　なきにあられど
たぐひもあらぬは　主なるエスきみ
うからはらからも　およびはあらじ
たれか我がために　いのちをすてし。

此の世にましては　つみ人のとも
のぼりたまひては　みさかえのきみ
つちくれに似たる　身をもきよめて
みくにのよつぎと　ならしめたまふ。

みめぐみうくれど　悟りもえせず
こゝろにもあらで　御名をけがせり
かくまでまがれる　身をさへすてず
友とよびたまふ　君そたふとき。

人を愛せよ

第三次夏期講習會概勢

一記者

今の世宗教を求め信仰を呼ぶの聲至る所に起りて、基教は漸次田間僻地の中にも歡び迎へられむとす。元より是自然の數にして些の怪しむべきものに非ずと雖も又其の間偉大なる神の恩愛なくむばあらず。吾等決して「パン」のみを以て生くるものに非ず、肉以上物質以外更に意義ある境致を欲求すること正にキリストイエスの説き給ひし所の如し。然も社會の悪思潮は吾人の四周を圍むで千波萬波の狀勢を現出しつゝあり。あゝ我等にして若し一歩を誤らむか身心共に死地に瀕せんとす。奔馬の餘勢は到底獨力の能く支持し得べきものに非ず。此に於てか吾等は聖く美しきキリストイエスを生涯の中心としエホバを萬軍の主と崇めまつりて勇ましく正義の戰を試みざるべからず。第三次の基督青年會夏期講習の擧ある蓋し又偶然ならざるものある也。

會は七月十四日の午後、夕陽西に沈みて風鈴の音仄かに涼味を齎すの時、都の塵を餘所にして綠樹清く青草滑かなる青山女學校の一室に於て開かれぬ。

瀟洒たる樓上の一室、東南北の窓打ち放し自然の木立を見下す所、清爽の風自づと胸裡を清めて室は何となう神々しさを加へぬ。正面の黒板には白地に深紅の日章旗を交叉し其が下にチョークもて歡迎と大書し

萬軍のエホバ宜ふ、こは權勢に由らず能力に由らず、唯我が靈に由るなり。

と筆力豐かに書き流したる、さすが衆目を引て心地よかりき。やがて夕風颯と樹上を掃へば樂の響き讚美の聲洒々たる樓上の一室に湧き起りて眞に世俗の煩を脫し神韻漂渺の氣に打たれたるの感ありき。

講師役員の顔觸れは昨夏第二次講習の當時と大同小異なるも會の進行、講習の成績、會員相互の親睦、講師會員の接近等に至ては優に數歩を抜きたるものあるべし。院長エーヂールイス孃を始め青山學院側の厚意はいはずもあれ、河井氏を先頭に宮川須藤持舘の各役員、ミスマクドナルド、ミスフヰシャーなど正副各幹事の粹盡は優に來會諸姉の喜悦と滿足とを買ひ得たりしを疑はず。殊に萬緑中の一紅點ともみるべきは日本留學の支那婦人五六名本會に列せらたることなり。中にリボン廂の海老茶作り、某講師をして「日本人そツくりだ」と舌を巻かしめたるも又時にとりての一興なりけり。

會は斯くて平和と歡喜との中に滯りなく一週七日の日子を送りて七月二十日の夕刻九時半とも覺しき頃目出度閉會せられたり。其の間聖書の研究、朝夕二回の講演會さては祈禱會親睦談話の集會に來會諸姉もさこそ御骨の折れたることとなるべし。然も一週七日の日子に於て尙且つ新なる智識と妙なる信仰の糧とを增し給ひしこと僅小ならずと信ず。吾人は諸姉が炎熱酷暑を犯し數十百里の道を遠しとせず喜び勇てキリストイエスの名の下に熱心に祈禱し講習せられたるの勞に向て深く感謝の意を表せざるべからず。今や思ひ〳〵に家郷に還り故りにし山水に接して一家和樂の妙想に入れるの時夏期講演集一卷を手にして靜かに當時の樣を偲ぶも亦薰風和樂の一助たらずむばあらず。唯恐る、記者淺學寡才十分演者の高敎と語氣とを寫す能はず支離滅裂其の意を盡さゞる所少からざるを。加ふるに紙數有限到底すべての講演を載錄するの餘地を有せず、任意此に七種を拔いて「綠陰清風號」の一卷を成しぬ。元より記者に何等撰擇標準のあらう筈はなけれど强て申せば一定の頁內に出來得べき丈け多數の講演者を網羅せんと試みたる一事あるのみ。

若し夫れ講演內容の取捨を記者に一任し、草案を貸與して筆記の便を與へられし諸氏に對しては衷情感謝の

意を表せざるべからず。然も講演記事にして折角の名玉を瓦石化したる節も少からざるべし、此等一切の文責は元より一に記者の負擔に任ずべき所、切に熱烈なる講演者幷に讀者諸姉の寛恕を乞はむと欲する所以也。

今や氣候熱して涼を呼び清爽を求むるの情喝者も啻ならざるものあり若し夫れ此の一卷にして讀者修養の友となり清風凉味の一助ともならば豈只役員記者の喜悅のみならむや。謹て會員諸孃の健康を祈る。

左に委員派遣の學校名、幷に出席人員數を掲げて講習當時の盛況を偲はむ。

東京――青山女學院九名。女子學院一名。女子大學二名。女子英學塾十四名。普連土女學校十一名。御茶水高等女學校八名。東洋英和女學校一名。府立第三高等女學校卒、一名。女子語學校一名。東京女學館一名。女子音樂學校二名。女子商業學校四名。學習院女子部敎師一名。日本橋小學校敎師一名。

校數十四、　人員合計五十七名。

横濱――フエリス女學校十名。共立女學校七名。捜眞女學校五名。聖經女學校二名。

校數四、　人員合計二十四名。

地方――大阪プール女學校二名。神戸女學院三名。廣島女學校一名。仙臺宮城女學校七名。靜岡英和女學校三名。甲府山梨英和女學校十一名。宇都宮クリスチヤン女學校一名。福岡英和女學校三名。盛岡女子青年會五名。

校數八、　人員合計三十五名

雜部――相州大崎町一名。東京市五名。講習會役員十二名。外國婦人五名。合計二十三名

總計學校數二十六校、人員百三十九名。



開會の辭

河井道子女史

格言キリスト ─┬─ 門…(約十〇九)
　　　　　　　├─ 救主…(約二〇十一)
　　　　　　　└─ 基礎…(コ前三〇十一)

イエス曰けるは我は途なり眞なり生命なり

今より二年前此の地に初めて基督敎女子青年會の夏期講習を開きまして以來本年で丁度第三回目になります。其の間いつも當青山女學院の熱き御厚意は勿論直接間接に御關係下さつた方々の深き御同情と神の御恵みとを深く感謝致します。此處にお集り下さいました皆様の中には第一回當時より引續き御出席下さいました方々も見受けますやうだし又昨年の講習から御出で下さつた方や本年初めて御出席下すつた方も少からぬやうに存じます。勿論此の會の開主は日本基督敎女子青年會でございますけれども實は青年會の會ではなく皆様御自身の會でムいます。學校に關係を有つて居られる方々や學生の方々にとりましては一年の中の學期を濟まして樂しく家郷を音信れ海に山に心身を喜ばせようと思はるゝさなか此の會合に御出席下すつたのは私共の大に喜びとし又感謝する次第であります。

皆さんも御存知の通り物には多少犧牲と云ふものがなくてはなりませぬ。學問をするにも美しい庭園を拵へまするにも田を作るに致しましても皆相當の犧牲を拂はねばなりませぬ。況んや物質以上學理以上の靈的の者に於きましては其れ以上の犧牲を要するのは至當のことと存じます。で私は之れ位なことは神様に對する適當の捧げものと信じます。私共のやうに始終學校の事業に關係致しまして忙しいものにとりましてはよし靈的默想にはいりましても何だか薄ッペラのやうて形式に流れたり他事に亂されたりして思ふやうに參らないことが往々てムいます。けれども此に來らんとする一週間を高き清き神様と親しく交ることとの爲に費すことの出來まするのは私共の心から喜びとする所でございます。南は九州北は北海道の遠地よりしてわざ〳〵此處に御集り下すつた方々は皆神の子と云ふ名目の下に互に親しく神と交り樂しく神様の御道を辿つて行きたいと存じます。

私は嘗て幼稚園に就て或人の御話しを承りましたが外國では幼稚園の生徒は上流の子供ではなく却て中流以下のものだそうて上流の家庭では教師が付いていて萬事の心配をやつてくれることになつているそうであります。日本ては大底幼稚園と申しまするど中以上の家庭に生れた坊ちやまや孃ちやま方てそれに生徒には大概物を教ふると云ふことが主となつているやうに思ひますけれども私は幼稚園て最も大切なことは教ふると云ふよりも寧ろ友達と仲よく遊び親しく交らしむると云ふことてあらうと思ひます友と交り人と接することに依て自己一身の利益を捨て我利の念を去つて互に惠み救はるゝと云ふ事が重要の點だと信じて居ります。人と交ると申しましても單に衣類の着こなしや人まねをすると云ふことてはなくお互に各自の特色を見て力を合せ心を一にし世の中を改善すると云ふ根底を作ることは人と交る中心の意義かと存じます。御存じの通り本會講習會の

格言はエスキリストであります。特に此の一語を撰びましたことに就ては多少理由のあることでございます。と云ふのは先年神田で開かれました萬國基督敎青年會に多數外國の代表者が見えまして其後自國に歸られるし、日本よりも又代表者が參りまして當時の感想を尋ねてみまするど外國代表者の多數は日本に於て基督敎は乾度歡迎せらるべきもので現在と雖も着々成功しつゝあるが惜しいことには其の土臺とも云ふべき根定が無視せられて居ると申されたさうでムいます。又或る牧師の方は東洋の代表者は學識に於て辯舌に於て其他あらゆる方面に於て遙かに歐米の代表者に優つて居たが歐米の代表者中には勿論其の辯舌に於て恍惚たらしむるものもありましたが概して平凡であつたと申されました。よし聞くことは耳新しくなくても東西西洋の代表者を比較して見まするど其の品性に於て人格に於て東洋人は遙かに劣つているやうに思はれます。一見したばかりても何となう東洋人の顏には神の御姿が映つて居ないやうに思はれます。何れの學校を見ましても敎師の側に幾何かの信者は必ずございます學生の中にもあります。最も六ヶ敷い役所や官廳などにでも之れを見ることが出來ます然して此等の人々は如何にも眞面目で親切であると云ひます。學生の側に就て見ましても例令學才に於て多少缺けた所がありましても何處となく温雅で他人の企て及ぶ事の出來ない特性を有つて居るやうに思はれます。けれども一概に基督敎信者と申しましても其の根本たる救と云ひ主エスキリストと云ふ感念に至ては如何でありませうか。以上のべました眞面目であるとか親切であるとか云ふことは元々枝葉に屬すべきもので末の問題でございます。丁度建物に就て申しましたならば硝子だとか屋根だとか窓だとか云ふのと變つたことはありますまい。私共は之れ以外尙ほ大なる一大精神が潜んで居るものと信じます。世の中に眞個の心からしてエスキリストを以て自己の精神とし友としているものが何の位ございましよう。又救主であり眞の友である

と云ふ確信を有ち之れを會得（エトク）しているものが何の位ございましようか。單に人を愛すると申しましても其の衷心の意義を知らなくては駄目でございます。故にキリストを詔介して貰ひますことも極めて大切なことでありますが之れ以上キリストを生命とし眞個の友とするには各自の修養と信仰とに委任せなければなりませぬ。主を紹介して下さいました人は飽くまでも感謝すべき人でございますけれども之を眞の心に對稱し適應して精神の一部となすのは各自の責任であります。何方に致しましても或る時代は失望し苦しみ非常に寂寞を感ずることもございましよう。學校を出る。境遇が變る。如何なる時にも望ましく欲しいものは心の友であります。學生時代の友達は澤山にあり、文學の友や技術の友はあり餘る程居ましても是等の友は或る點まで上つて參りますると其の間にいつしか大きな門戸が出來高き堤防が横はつて參るものでムいます。之れを取り除くものは一に神の愛であります。眞に神を知り主を友とすることの出來る人に煩悶がありましようか。厭世思想が起るのでありましようか。私は眞に神を見主を友とすることの出來る人は根本的に救の道に入つた方で一生を幸福に送ることの出來る人と信じて居ります。否私共にとつては大なる喜びでございます。爾は主を紹介しよう。けれども之を自己のものとするのは私共の目、耳、心であります。彼のサマリアの女のやうに私共は直接に之れをしると云ふことが大事であります。云ふ迄もなく私共の生命は極めて大切なものでございます一生一度のもので之れを最も有益に最も樂しく最も幸福に過ぐさしむるものは救主たるエスキリストの御力であると信じます此の意味に於て主エスキリストを自分の土臺とし眞の友として祈り且つ勉めて行くのが此の會合の主旨でございます。皆様もどうか此の精神を以て御勉め下さいまするやう役員一同に代て切に希望致して置きます。

基督教青年會世界的運動

東京青年會主事　山本邦之助氏

私は今日皆樣の前で青年會の世界的運動に就て一場の講話をするやうにとのミス、マクドナルドの御依賴に依て此に參つたものでありますが、青年會の世界的運動と申しましても大變茫漠とした話で一時間位では迚も盡すことは六ケ敷ことと存じます。然し其の中で最も重要なことは平和的といふ一事であります。勿論社會的事業としては萬國平和會議や赤十字の組織などがあつて着々平和的方面に貢献しつゝあるが、此等の事業はすべて消極的性質の者である。勿論或る意味に於ける貴き事業には相違ないが倘ほ戰爭を豫想しての話である。戰爭の慘事が行はれた後の處分法である。之を積極的に自ら進で平和を持ち來さうと云ふのには、どうしても宗教的運動の援助を借りなければなりませぬ。で私は宗教的運動、殊に目下青年會が試みつゝある事業が如何に世界的平和の上に貢献しつゝあるかに就て暫らく考へて見たいと思ふ。

私は男子の青年會に關係を有つて居るもので直接に女子の青年會には與つて居ないが苟も青年會の事業なるものが世界的なる爲には兩者が密邇たる關係を有して居らねばならぬことは申す迄もない。それで私は昨年の十月日本を出て米國にまゐり、ワシントン青年會の大會に出席して本年一月更に英國リヴアプールに開かれた英國學生の基督教傳道大會に臨みました。此二つの大會に依つて如何に今日世界的勢力が青年の働の上に現はれつゝあるか、又此の會合が如何にも活氣ある有樣を見て非常に愉快に思ひました。で今日は此等の情勢に就て當時見聞致しました幾分かをお話したいと思ふのであります。

大體に青年會を性質上より種類別にしてみると三種になります。第一は學生青年會、第二は市民の青年會、第三が學生市民以外の青年會である。先づ順序として學生の青年會より說明を加へて見ましよう。

學生の青年會は男女二種に別れて居りますが要するに教育ある學生男女の集合である。日本に於てこそ男子と女子部との青年會は純然區別せられて居るが歐米に於ては合一せられて居る。之は大學や高等學校などで混合教育 Co-Education の盛に行はれて居るのも其一因でありましようが兎に角男女の學生が互に共力して青年會事業の一部を負擔して居るのは事實であります。現に昨年開かれた萬國基督教青年會の大會などは純粹な男女聯合の大會で來年は更にオクスフォードで開會することになつて居ます。

第二市民の青年會は男子の部 Y.M.C.A. と女子の部 Y.W.C.A の二種になつて居る。即ち一般業務に從事せるもの、例へば銀行員だとか會社員だとか商店に勤めて居るものなどが其の重なるもので、女子の方では殊に米國のやうに職業の開けた國にありましては店員書記其他實務に關係して居るものが集合して、或は修養の途を講じ共に寄宿して寢食を共にして居るのであります。日本現今の情勢として此の種の事業は未だ不完全極まつたもので普通日本青年會と申しますと大抵第一種の學生團を指すのであります。

第三種のもの、學生市民以外の青年會といふのは、鐵道青年會や陸海軍人の爲め或は坑山役夫、移住民などの爲めに特殊の設備を加へたものであります。日本青年會では前にも述べました通りで殆ど第一種のものに限られて居るやうな姿で遺憾ながら第二第三種の部分まで其の力を伸ばすことは出來難い境遇にあるのです。然し行く〳〵は第二種より第三種の事業に展開せしむるのは青年會究局の要目て、亦私共の一大責任であると信じます。けれども此の席では細かい話しは必要のないことゝ思ひますので第一種の學生青年會に就て、も少し

詳しく述べて置きたいと思ふ。

云ふ迄もなく青年會の大目的は個人の品性を高上せしめ他方には青年學生をして自己以外の爲献身的努力を惜しまぬといふ境致に導き入れるのにある。語を換へて云へば一は自個修養の爲め、二は未信者傳導の爲めであります。人もし自個修養の功を積み品性修錬の境致にはいりまする と、自然之を他人に及ぼし他の憐れな信仰を得ない人々の爲に、尊き神の道を宣傳しようとする傾向を生じ來るのは蓋し人間自然の情操でありましよう。學生青年會の間には教育ある青年を相手にするので其の事業も一層困難で熱心の度も一倍と必要を高めて參ります。此の頃開かれました英國學生の傳導大會(青年會の別名とみて差支はありません)では學生間に如何ばかり傳導熱の熾に燃え立つて居るかを窺ひ知ることを得ました。一體此の學生傳導會と申しまするのは今より十六年前始めて設けられたもので四年目毎に一度の大會を開きまする規定ですから本年は丁度第四回目の大會に當つてゐるわけであります。此大會には英國の學生は勿論歐大陸を始めて印度支那日本よりも來賓として參ることになつて居る。本年の一月リヴアプールで開かれた第四回の大會には英國學生の數が千五百人、內五百人は婦人の方で丁度三分一の多數を占めて居るわけになります。外國より出席したものは十六ヶ國の代表者で總數一百四名、內四十四名は女子であります。之も大要三分一の比例になりましよう。日本よりは京都同志社出身の牛田孃と私とが出席致したやうなわけであります。

以上申述べました通り基督教大會には婦人の數が全體の三分一を占めて居ると云ふ、盛況であるが是は英國女子教育の發達を示現する一標徵である。かも知れませぬ。此等の青年男女が一體となり一團となつて青年會事業の活ける力を作るのであります。此の場合に於ては勿論男女の區別なく各自其の出來得る限り働きを演ず

るのであります。わけて此の會の中心ともいふべきは傳導的熱誠であります。彼等が一度學校を出て各自の職責に向ひますする時に若し神の御許しを得たならば外國傳導の爲めに一身を捧げやうとする誠意は各自の顏面にあり〳〵と讀まれる心地が致します。かくて「此の時代に於て世界に傳導せん」とは此の青年會の標語とする所で自國内のみならず廣く眼を世界の大に注いで居るのは大に喜ぶべき現象であります。特に彼等青年の間には申し合したやうに東洋傳導熱が盛てあるやうに思はれる。勿論アフリカや南洋方面の傳導熱も皆無とはいへぬが一般學生の頭腦に不磨の印象を與へて居るのは東洋であると云つて宜いのであります。

私は此のリヴアプールの大會を終えて佛蘭西瑞西魯西亞などの各地を周りて大會に出席した代表者を訪ね獨乙に入つて委しく青年會の事業を視察致しましたが無論此等の人々は皆男子のみでした。殊に興味を覺えたのは佛蘭西の南部を旅行して其の代表者と會見した當時で、私は此の機會を利用して出來得る限り日本青年會の事情を紹介するに勉めましたが御存知の通り佛國はローマンカソリック國で天主敎の盛な國であります。で新敎徒は僅々七十萬内外に過ぎぬ有樣でニーム、モンピレー、モントーバンなどは其の主なる地方でありましよう。此等の地方では勿論市民の青年會などが設けられて非常に宗敎的覺醒の方面に近寄つてきたやうに思ひます。殊に學生間の宗敎熱は非常に烈しいもので青年會の事業なども日に〳〵盛大となつて居ります。此等數ある青年會に列席して私の特に感じましたことは講話の席に婦人の多いことであります。マダムだとかミスだとかゞ聽講席の大部分を占めて居るのは此國に於ては別に珍らしくないとて十分の七八はたしかに婦人である。之は勿論ＹＭＣＡの會合なんて特別に女子の爲に開かれたものではありませぬ。神田青年會ではいつも男子が九分以上て女子の方は殆ど指を屈する程もないのが常てある。此奇異なる現象は佛蘭西に女子の多いのも一因

であらう、が眞の理由は偷外にあるらしい。一體佛蘭西は餘程宗教趣味の發達した國柄で特に婦人の頭腦には强い印象を與へて居る。彼のナポレオンが「佛蘭西國民を敎へむとせば先づ其母を敎へよ」と言たやうに靑年男女の敎育に先つものは母である。かく觀じてくると敎會や宗敎的講演の席場に婦人女子の多數なる事實は佛國開明の一表象ではあるまいか。と云つても國民敎育の重荷を母にのみ任して靑年男女が同様に修養し聽講せないと云のは蔽ふべからざる缺陷である。勿論其事情の下には國體や人種上の關係もありましよう。が然し兎に角靑年子女に責任を感知せしめ自ら進で宗敎的趣味の涵養に勉むるのは母としての一大職責ではありますまいか。

佛國に於ける母の敎育、婦人の熱心は私共の大に學ぶべき點と思ふが此の意味に於て女子諸君が學舍を離れて後、人の妻として乃至は子女の母として直接間接に國民敎育の任に當られる場合、單に知育の敎化のみに依賴することは大に考ふべきことであると思ふ。獨乙や瑞西などでは近年靑年會の事業が減退したと云はれて居るが昨今再び活氣をもり返してきたやうにみへる。學生相互の間にも大に覺醒的傾向が見えるし又同時に傳導の精神も非常に高潮しているやうに思へる。歸りには魯西亞を訪問して暫らくモスコウに滯留し彼の地の事情を視察致しましたが女子敎育などは隨分盛大で敎會や靑年會などでも優に數千人の女子學生を收容して居る。のみならず此の地の學生は之のみで滿足せず進て獨乙や瑞西などに遊學するものが非常に增加して參りました。之が爲め却て魯國內地に於ける女子傳導の必要上先年からミス、ラウス孃が此の方面に全力を盡されることになりました。御存知の通り魯國はスラブの國で喧しい頑固なグリス敎の國柄であるが近年大に新敎勃興して各種の事業が追々と開かれつゝあるのは大に喜ぶべき現象であります。

要するに靑年會の事業が盛に起つて眞個宗敎的運動として世界平和の理想が着々實現せられつゝあるのは事

實であります。人種の如何を問はず國家の遠近を論ぜず、キリスト敎的勢力が現時世界各國の上に其が使命を傳へ着々として神國建設の理想を實現しつゝあるのは衷心歡喜に耐えない次第であります。日本に於ける靑年會の事業も此の運動の一部として見らるべきは勿論であります。かく考へて來ると愈々私共の責任の重且つ大なるを悟るのであります。

終りに臨で私が一ッの希望は出來得る限り男女靑年會事業の接近であります。外國では殆ど合一的に行はれて居るが日本靑年會の事業は男女別種のものとなつて居ります。之は早晩打破せらるべきものでありましようが以上申し述べました理想の發現は少くとも此の方面には有力な機會を與ふるものと信じます。どうか互に御協力して世界的平和の上に一代の風敎上に献身的努力をする必要があると思ふ。そして此の働が互に進て何等かの連絡を以て奮進協力することの出來るやうに願いたい者である。然し如何にすべきかの問題に至ては今日未だ名案もないが將來に於て是非之が實現を圖りたいと存じます。御存知の通り先頃米國大統領ルーズベルト閣下よりは日本靑年會に宛てゝ懇切なる信翰を賜はりました。『國民として乃至は個人として最要の者は各自の品性である。勿論身體の健全も望ましい事ではあるが就中重要なものは品性である勇敢にして健全且つ善良なる靑年男女を作るは當代に於て最も大切な事業である』然して此の理想に適つた男女靑年を作るは現時靑年會が與へられた天賦の使命であります。かくの如く基督敎靑年會なるものは日本國內に大切なるのみならず個人として社會的運動として眞の平和を實現する一大責任を有して生れたるものである。平和會議や赤十字、是等は共に戰爭の餘弊を矯め悲慘の度を減少せしむるにすぎないもので云はゞ消極的性質のものであるが靑年會の主眼とする所は世界的勢力を養て眞の平和的理想を實現せしむるにある。日本に於ける男女靑年會の事業が此

の一大勢力を以て世界的運動の一部として十分神國建設の爲めに力を盡してみたいといふのが私の唯一の希望てあります。（七月十五日講演）

基督教論理

立教大學校長　元田作之進氏

謂ふ迄もなく基督教は宗教であつて倫理ではない。が然し宗教と云ふものは人類と社會との間に最も密邇たる關係を有つていることを承知して貰はねばならぬ。挾義に於ける宗教は人間すべての方面に關係を有て居る。例へばイスラエルの國民を取て考へてみても直ぐに理解ることである。彼等には宗教を外にして文學なく政治なく倫理なし、云はゞ宗教に依つて生き宗教に依て活動したのである。又今日の印度人に就て見るも同様て彼等は徹頭徹尾宗教的國民てある。一杯の水を飲むにもお化粧一つするにしても、乃至は衣類のたち方も家の建て方も皆宗教的色彩を帶びて居る。即ち印度人は宗教を外にして一切の風俗なく習慣なく文學なく政治無しと謂つても宜い。

基督教的に就て見ても殊に中世紀時代は非常に宗教の重ぜられたやうに思ふ。文學も哲學も美術も風習も皆宗教の支配下に立つて居たのである。此の如く宗教を廣義に解釋すると世の中の事々物々は皆是れ宗教てある。けれども世の進み人智の開くるに從て此の廣き意味の宗教がだん／＼と挾められてくる。宗教に限らず政治ても文學ても然うてある。かくて政治は宗教と離れ文學は獨立して宗教の立場を遠かる。從て宗教其の物も亦社會的性質を有してくる。以前宗教家の責任的事業てあつた感化院や孤兒院なども今日では政府の事業とし

て著しく社會的色彩を帶びてきた。醫者は牧師の手より離れて獨立の事業を始める。其の他ありとあらゆる事業は皆分離獨立して單獨の運動を始めるやうになつた。謂はゞ古代極端に合一混交の姿をとつた事々物々は現今に至ては亦極端に分離獨立する形勢を示してきたのである。此の二つの極端な古今の傾向は何れも喜ぶべき現象といふことは出來ぬ。何も彼も宗教的である印度人のやうに學者も辯護士も偖は裁判官の連中迄がお化粧をするなんて隨分滑稽至極な話ではあるが彼等に取つては極めて眞面目である。此等は元より彼の地の宗教感念より生し來つたものではあるが、さりとは十目の見る所あまりと云へば極端な沙汰ではないか。

と謂つても現時の如く何だか宗教を專門あづかいにするのも誤つて居る。て其の間に立つて何れの學は宗教と關係なきや。又如何なる種類の者が宗教と最も密邇たる關係を有つて居るものであるか一應此處に辯別するの必要があると思ふ。

私は此處に宗教的意義を有する行動と然らざるものとの二種類を有して居る。然して宗教的意味より遠かつたものを求めるとしたらば先づ數學であらう。私はまだ世の中に基督教數學といふものがあらうとは思はね。基督教三角術なども恐らくあるまい（笑聲起る）基教電氣學や基教地震學なども勿論ない。かくの如く數理の學は元々宗教の範圍より遠かつて居るもので此等の者までも宗教の嚢に取り込まうとするのは餘りに慾が深すぎる。であるから私は人間行爲に關する學に限つて宗教的意義を與へてみたいと思ふ。例へば政治學社會學などに向て基督教的形容詞を冠してみたい。基督教社會學や基督教政治學などは今日無いやうだか其の實慥かにある。此の基督教的感想がだん／＼と近ついてきて遂に人の品性に關するものとなれば立派な宗教である。倫理とは最も親しい密接不離の關係を有してくるのである。

基督教と倫理との關係は右の通りてあるが、然し思想の順序として考へて貰ひたいことがある。といふのは基督教の聖典たるバイブルは宗教的書載て倫理的修身の御書物てはない、アリストテレースの著作や孔子の倫理書みたやうにキチンと順序を立てゝ人倫五常の道を說いてあるてもない。其れも其の筈て元々聖書はキリストの傳記てある。使徒の書翰お弟子の言行錄てある。だから勿論倫理の本てはない。倫理の本てはないが然し此の聖書の中に籠つて居る行動より歸納して（私は特に此の歸納といふ言葉をエムフアサイズしておく）そして最後の結論に達せなければならぬ。勿論之には色々の材料がある。山上の垂訓や天國の敎へ、十字架の血潮やゲッセマネの祈り、其他種々樣々なる材料を捕へ傳る。之よりして倫理系統を作るのてある。恰かも大工が此處の森彼處の林より柱木天井板を求め來るやうに之を秩序的に組み立てると云ふことが必要てある。此の如く一卷の聖書中には山もあり森もあり藪もある。かくして始めて倫理と云ふ一の大きな家が出來上るのてある。基督教倫理學者といふ人々は皆かくして倫理の家を作り倫理の系統を組織するのてある。皆樣が此の感念を以てバイブルに接せられたならば大に利益があることゝ信じます。

然らば倫理といふ範圍內に含まれて居る內容は如何てあるか、問題は如何。基督教が此の如きものを以て倫理と稱する以上、基督教は自然の責任として是に對する解釋を與へなければならぬ。私は今倫理の內容として次の四つを數ふる。

一、善惡是非とは何を指して云へるか。

二、何故に是を善しとし正しとし又善からず正しかずといふか。

三、或ることを善しとし正しとするは如何にして之を定むべきか。

四、人は善きことをなさんとし惡しきことを避けんとす。其の理如何。

以上の四問に就ては古來倫理學者が色々な解釋を與へて居るが私は今之を基督敎の立場よりして大要説明を加へて見たいと思ふ。

一、「善惡是非とは何をさして云へるか。」如何なるものが善で如何なるものが惡でしよう。分解つたやうで分解らぬものは此の一大疑問である。

「人を殺す」。善いこともあれば惡い場合もある。「虚言を吐く。」善なる場合と惡の場合とは慥かに在る。即ち人を殺す大罪惡も虚言を吐く非事も時と場合とに依つては却つて是が世上の善となるのである。然らば善とは何ぞや、プラトーは智識 Knowledge, 正義 Justice, 節制 Temperance, 勇氣 Courage の四徳を數へて居る。アリストテレースは勇氣、節制、寛容、廣量、高尙なる心、温和、誠實の七ッを擧げて居る。孔子は又仁義禮智信の五つとし、孟子は十個の敎條を垂れて居る。此等は皆善いことに違いない。されどキリストは如何なることを以て善とみ給ひしや。之が吾等の聞かむとする敎である。之は後でゆつくりお話しをするとして第二問なる「何故に或る事を正善非惡といふか」語を換へて云へば是非善惡の標準は何に依て定めらるゝのであるか。若し皆様に向て私が詐りを言つたら乾度虚言者といはれるだらう。けれども何故虚言をつくことが惡いか、一應理由がなくてはならぬ一體正當の理由なくして人に向て是非善惡の判斷を下すことは出來ぬ筈である。虚言をつくことは何故わるい、何故正しいことではないだらうか。一寸六ケ敷い。——先生が惡いと敎へたから——良心が咎めるから——之てはまだ十分の理由とはならぬ。何かもつと判然とした强固な解答が必要てはあるまいか。然らば基督敎は之に向て何と答ふるか、何處に是非善惡の標準を求むべきであらうか。私は是等の難問を解決する爲

に須く先づエデンの森に行けとお勸めしたいのである。

御存知の通りエデンの園には太古と繁つた綠樹の中に智慧の實を結ぶ一元の果樹があつた。之は林檎や蜜柑だと思つても差支はないが思へば思ふ程奇體なのはエデンである神樣はアダムとエバとに向つて固く此の智慧の實を口にすべからずと戒め給ふた。所が一日蛇が來て先づ意思の弱いエバを誘惑し遂にはアダムまでが神の罪人となつて了つた。」始めて智慧の實を口にしたアダムとエバとは其の甘く美しい果實に醉心地となつたのだが其の結果は如何である。創世紀の第三章は明かに之を告示して居る。此のエデンの物語を如何に解すべきか……とは神學の問題で此處にお話しをしようとする倫理の問題ではない、唯此處で一ッ注意すべきことは神が嚴かに禁し給へる智慧の實――林檎でも蜜柑でも何でも搆はない――其の智慧の實を口にして神の戒めを破る。其の事が既に惡である。神の命を奉し神の意に遵ふのは善であつ之に背き之を破るのは惡である。倫理の思想は其の實此處に含まれて居るのである、父が之れしては惡いといへば矢張り之に從つて其の物を遠かるべきである、之をしても宜いと云へば進て行るべし、之れ即ち善である。故に基督教では父なる神の御心に從ふのは善である。が之に反するものは惡である。之て十分である、明白である。

然し第三の問題「正善は如何にして定むべきや」となるちと六ヶ敷くなつてくる。即ち何れが神の御心であるか」之を知るのは至て易いやうだが其の實はなか〳〵容易なことではない。是に就ては少くとも三ッの方法が聖書の中に書き記してあるやうに思ふ。

そは人の知べき所の神の事情は人に明にして既に神之を顯し給へば也

それ人の見ることを得ざる神の限りなき能力と其の神性とは造られたる物により創世より以來さとり得て明に見るべし………

……………………………………（羅馬書第一章一九―二〇）

依之觀是ば神の心に依れる一の心は自然法である。宇宙天地の法則である。キリストは「空飛ぶ鳥を見よ。野の百合花は如何にして生長かを思へ、勞ず紡がざる也」と宣ふた。空の鳥をみて神意を知り野の百合花に接して聖旨の深きを悟る。自然界には神の御聲神の御姿が滿ち〳〵て居る。私共は少からず此の宇宙汎百の事物に依て神意の限りなきを了得するものである。詩人ダビデは殊に此の種の性能に秀でたものであつた。かくて吾等が知見の眼は天地以外人事以上に普及することが出來るのである。

それ律法なきの異邦人もし本性のまゝ律法にのせたる所を守らば律法なしと雖も己の律法たる也。彼等其の心に銘されたる律法の工を彰し其の良心之が證をなして其の思念互に或は貶し或は護ることをなせり。……………（羅馬書第二章一四―一五）

第二は人心の律である第一を自然法とすれば之は人事法である。人には良心と云はうか道德心と云はうか兎に角一種善惡を判別する機能を有して居るものである。基督教に依ると人間はすべて神の形に倣せて造られたと記してある。即ち形も性も共に神樣の模造である。神樣を模型に据えて出來上つたものである。けれども動物學者などは人類を以て猿猴族と類似せるものと云ふ。皆樣、私共は猿に似て居ると云はれるのと神樣に似て居ると謂はれるとは何れが心持が宜いでしよう。私は少くとも猿に似て居ると主張する動物學者を避けて聖書の下に跪いてみたいと思ふ。然し何もダルヴヰンの進化論を否定しようとは思はぬ。只私は飽く迄も吾等人類が神のやうになれるのだと信じて居るのに止まる。

斯の如く人間は一面に於て貴い神性を具有して居るものであるから自己の良心に依て自己を判斷することは慥かに出來得ると思ふが第三に教へてみたいことは最も重要な點である。

ピリポ彼に曰ひけるは、主よ、我儕に父を示し給へ。然ば足れり。イエス彼に曰けるはピリポ我かく久しく爾曹と偕に在しに未だ我を識ざるか。我を見し者は父を見しなり。何ぞ、父を我儕に示せといふや。我れ父になり父我れに在ことを信ぜさるか。我れ爾曹に語りし言は自ら語りしに非ず、我にをる父その行をなせる也。………………………………（約翰第十四章八―一〇）

此に最も注意すべき要點は「基督を通じて神の心を知る」と云ことである。基督の此の世に下り給ふたのは神の心を此の世に傳へむが爲である。かくてキリストは色々な方法手段に依て神意を宣傳せんと企てられた。第一敎へに依り言葉に依て。第二神は此かる者と自己を動かすことに依て。第三、自己の品性に依て。此の三つのもの——敎へと品性と行爲——とに依て神に近けむと勉められたのである。語を換て云へばキリストを通じて神をみるのである此の感念を以て聖書に對しキリストの傳記を讀だならば廣大無量の利益と活きたる力とを攫得することが出來ると思ふ。

以上述べ來つた三種の方法——自然法と人心の律及びキリストを通じて神を見ること——は慥かに神の御心を知る主要のものであるが、然し單に之を知悉したのみでは何も神意を行ふと云ふ結論には到達せない。善惡を識別すると之を行ふとは自ら亦別事である。だから進て善を行ふの力を養ふと共に何故に吾等は善きことをなして惡しきことを避けむとするか……………此の第四間に就ても一應の詮議を試みねばなるまい。

然ば我が愛するも者よ爾曹常に服へる如く長れ戰きて已が救を全うせよ。我ともに居りし時のみならず我が居らざる今は特に然かすべき也。其は神その善き旨を行はんとて爾曹の裡に動き爾曹をして志を立て事を行はしむれは也。……………（ピリピ第二章一二―一三）

善と知て之を行ふのは、とりも直さず之れ神が私共の心に働きを與へ給ふ故てある。一言以て之を盡せば神の力てある。他力てある。之は他の倫理と異なる所て總て活動の本源を神と見神の力に歸する。此處に基督敎倫理の特質があり本領があるといふのである。兎に角人には自力と他力との二つがあつて互に相依り相助けて居

るのである。

願くば窮りなき契約の血に由て羊の大牧者なる我儕の主イエスキリストを死より甦らしゝ平安の神。イエスキリストに由て其の悦ぶ所を爾曹の心の中に起し又爾曹をして其の旨を行はせんが爲に凡て の善事に於て爾曹を全うせしむべし。榮光かれに歸して世々限りなからん。…………（希伯來第十三章二二―二一）

倘ほ今一つ順序として附け加へて置きたいことは「人生の目的とは何ぞや」といふ問題である。之も聖句に見えて居るがバイブルには二つの方面から說明してあるやうに思ふ。即ち第一は人類を個人として乃至一の個體としての見方で、第二は之を集合體として團體的に見るのである。個體として見たる人間の目的は永生であつて集合體として見たる人類の目的は天國である。此の永生と天國とはバイブルの全體を通じて見出される思想の一つなのである。

然らば永生（エヘーラスチングライフ）とは何か。といふと時間的に無限なるのみならず、性質に於ても永い生命である。だが苦しい生涯では仕方がない。こんな場合には折角の永生も却つて迷惑であらう。早世する方が餘程ましだ。が然し眞の意味に於ける永生は限りなき喜び無限の平穩を意味するものである。

天國も同樣で決して之は場所を指すのではない。心の狀態である。天國は面積幾萬方里などゝ量るべきものではない。神力の働く狀態である。だから地理的性質のものでもなければスペースのものでもない。天國は一體どんなものだか聖書にも見えて居ないのだから從て人々の頭に異論な想像が湧いてくる。蓮華（れんげ）の花が咲いて鳥が歌うて蝶が舞うて――苦しみのない、永世の歡樂殿が聳へ立た――どんなにても想像してみる方が宜（よ）い。が如何に想像の翅を廣げてみても到底之れ文學的詩歌的たるを免れぬ。科學的には一文半錢の價（ねうち）もない。たゞ心

身の圓滿と無上の幸福が得られるといふより外に支方がない。

以上述べ來た個人的永生と集合的樂園とは一見相容れざる別種の性能を具へたものゝやうに思はれるが決してさうぢやない。永生と樂園とは互に固く相一致するものである。即ち天國の人となるものは畢竟永生の人て、永生の人は乾度天國へ上るにきまつとる。根本の見方は違ふが結果は同一である。

要するに私の所謂基督教倫理なるものはキリストの言葉よりも學說よりも乃至は組織よりもキリスト自身が中心である生命である、之れ他の宗教と異なれる所以で又キリスト教倫理の一大特質であるといつて差支へあるまい、故に私は斷言する。基督教倫理を見むとするものは先づキリストを見よと。基督の倫理は動いて居る働いて居る。家庭に入つては家を清め國家にあつては國を強くし、個人の精界に入つては品性を高める。かくて神の理想に向つて步一步と猛進するのである。

問題が大きいだけに迚も一時間やそこらの時間内に論じ盡すことは出來ぬ。皆樣が勉强の手引きにでもなつて、之を土臺とし根柢として新しい興味と知識とを誘導することが出來たら私は望外の悅である。(七月十五日講演)

イエスキリストの友誼

第一高等學校長
農學、法學博士　新渡戸稻造氏

私はちと所要あつて田舍の方へ參つて居たが今日此の席に立て標題のやうなお話しをするやうにとのこと此の日に限つて御無沙汰するのも何だか氣持がわるいし、又此の日を撰て友を避けるといふのも四十八ヶ年以來

の習慣方度に背く。これや一つ參らねばなるまいと愈決心の臍を固めて今朝田舍を後に都上りを致したやうなわけてある。かう申すと何だか皆様に恩を着せるやうだが餘り有難いなど丶思はれては困る。なあに參りは參つても肝心のお話は極々つまらないものだから唯此處までやつてきた私の厚意だけを汲みとつて貰へばそれでもう澤山てある。(笑聲起る)

さて只今お話しやうと云ふのは「エスキリストの友誼」といふことてあるが、之は何も私が勝手に撰だわけのものではなく役員の方て撰出せられたものてある。が多少之に就て感ぜないといふわけてもない。一體宗教家などいふものは專門的のものでも何でもないのだから宗教家には常識が缺けて居てはならぬ。元來宗教其の物がコムモンセンスのもので決してセンモンセンスのものでないのだ(大笑聲起る)常識で普通一般の人が知悉して居ることが宗教で決して格段に目新らしいものではない、非常に珍らしい珍奇なことを云ふ宗教家こそ却て非常に怪しい怪物なんた。

一體偉い人とは如何者だらう。偉いといふのは何も破天荒なことをのみ云ふ人ではない。萬人の言はんとし語らんとして未だ語り得ない事實を言てくれる。是が偉いのだ。衆人に秀れた人なのだ。もしも珍奇な破天荒な事實を明かす人のみが偉いと思つたら先づさしあたり巣鴨近傍に行つてみるがい丶。葦原將軍だとか天下の豫言者だとかいふ偉い連中は幾らもころがつて居る(笑聲起る)私は論語を讀でいつも非常に感服するが論語の第一頁には何と書いてある。「有朋自遠方來亦不樂乎」別に目新しいことでも何でもない。酒屋の小僧でも云つてることなんだ。けれども此の一句が誰でもいつてることとて萬人共通の感想だけに倘以て嬉しい。衆人の言ひたいことを僅々十個の文字の中に含蓄せしむる。之が偉い所だ。凡人の及ばない力量である。て私もキリス

トの友誼より豪いことは言はぬ積り、否皆さんがとうに知つてることを云つてみたいと思ふ。

新聞や雑誌などで盛に書いてるからとうに御存知だらうが昔アリストートルはゾーポリチコン Zo, Politikon といつた。こんなことを云ふと希臘語なども私は知つてるやうだが實は是だけしけや知らない。で此のゾーポリチコンといふ希語を譯して見ると「人は社會的動物也」といふことになるさうだ。人間はどうもさうらしい。相手を求めて交りをする。畜生でもさうだ。犬ころがり、何か鳴いては求めて居る。じやれ廻つては切りに喜て居る。してみると犬も慥かに社會的に出來てる。のみならず、犬は人と交つて最も長いものだ。之は非常に面白い興味ある題目である。何故狸や虎が家畜とはならなかつたらう。龍は何故人間の眼には早くから映つても家畜の中に加はらなかつたのだらう。獅子は？狼は？熊は何故家畜として人間と交らなかつたゞらう、此の問題は興味深いだけにちと面倒だ。兎に角現今家畜として人間と親しく交つてゐるものが世界の生物が一萬種ある中て僅々四十七種にすぎない。といつても今數へてみいと言はれるとなか〳〵二十種も數へ切れまい。況や普通專門家以外の人にとつてはせめて五畜か六畜位に止まるてあらうと思ふ。牛馬羊豚鷄………まあこんな所て結構だ。が然し前にも云つた通りて社交的方面から見ると家畜の中で、犬程長く人間と交つたものはない。馬よりか羊よりか何よりも早いのだ。まあ犬を御覧なさい。尾を振つてグウ〳〵唸つて友を呼て居るのではないか。犬すらさうだ。又烏合といふ文字がある。鳥もお友達を求め歩いて居る。けれども此等は委員會などいふやうな高尚な集りてはなくて喰はんが爲てある。利益の爲に集るのである。狼はよく群をなす。けれども之は親睦會を開いて樂しく笑話する爲てはない。狼は寄宿舍などには居らぬ。では何の爲に集るか。矢張り喰はんが爲てある。山影から馬が見えたとする。それッと直ぐに喰つてかゝるのは狼だ。けれども、アリストテレースが言

つた意味の社交的ではないのだ。此處を間違へてはならない。社會的に親善を圖るのは人間のみである。論より證據先づ人といふ文字を見て御覽なさい。昔は朩からいふ風な形で表はされたさうだが棒が二本あるぢやいか。詩書精遠といふ書には棒を二本引いてある。二ッの棒が互に相支へて行くのだ。之が人間である。人といふ文字は學術的に旨く出來て居るのみならず能く人情をも諒して居る者と思ふて居る。どうしても人間といふ者は一本立で行ける者ではない。飽く迄も社會的である。アダムは如何だ唯一人では辛からうといふので神はイブを下した。否アダムとかイブとかいふ名前を付ける以上既に男女の別ある事を豫言してるとみて宜からう。何も唯一つある場合に名稱を下す必要はない。男があればこそ女も居る。世の中が男ばかり女ばかりの世界であつたら男女の名稱も自然不必要となつてすたれて了う筈である。山中に二種の猛獸が居る。そこで一方を獅子と名け他方を虎と名ける。之は必要上區別するのだ。してみるとアダムと名稱を與へた以上、既にイブは神の御心に生きて居たのかも知れぬ。兎に角人間と云ものは孤獨では行けない。友を呼び相手を求むる者である。

が此處に一ッ注意して置きたいことは西洋の家庭が夫婦を意味すると同時に日本の家庭は親子である。之は至極大事なことで間違へて貰つては困る。西洋で一般にホームだとかファミリーだとかいつて居るのは夫婦であつて親子を指したのではない。之に反して日本で家庭といふと親子であつて夫婦を指して言つたのではない。だから西洋のホームは二本立で同等であるが日本の家庭は上下があつて其の間に差別が付いて居る。夫婦が出來た以前アダムは天なる父と唯二人で居たがイブが出來てからは友達が一人加つて二本立のものとなつた。要するに道德の元は父に對する孝である。夫婦の爲には友である。此處が今日お話しようとする題目なのだ。

勿論人類社會には友誼と云者があるが是れは畢竟するに德道進化の最初の德である。最もプリミティーブな元

始的な道德である。故に人は何處迄も社交的性質のもので友なくては生存するわけには行かぬ。昔しロビンソン、クルッソーといふ物好き男が居て淋しい孤島に人間が居ないので遂には犬を友人に貰つた。又鸚鵡を友として僅に心の寂寞を慰めた。ロビンソンに限らず總ての人類がさうなのだ。牢獄の暗黑界に唯一人淋しく禁錮せられた可憐兒は如何する。ロシアでは此の種の物語は幾等もあるが或る國事の爲めに奔走した者が政府の諱忌に觸れて牢屋にぶつこまれた。厚い五六尺もあらうと思はれる壁の中に――眞暗な咫尺も辨ぜぬ――獄舍の中に何年何十年と捕はれて居た時に彼は何を友としたか。暗闇にちよろ〳〵出てくる鼠を友人としたのだ。自分の生命を支ふるに足らぬ粗末な黑パンの一片を割いて鼠に與へて手なづけるのだ。こんな風で十年二十年の後牢屋を出て世の中に來ると全く言語も忘れ口も動かなかつたとは彼の地の歷史に能く記してあることだ。人は如何なる場所、如何なる境遇にあつても、友を求むるの情は止まぬ。這般例は數限りなくあるが兎に角人には友誼といふものが無くてはならぬ。死ぬる迄變らぬ確固の一念がなくてはならぬと思ふ。

　私は友を作るのに少くとも三ツの動機 motive があるやうに考へる。第一は利害關係より生じたる友、第二が法律的關係　第三が愛の關係である。利害關係より生じたる友とは何であらう。烏合の友である。喰ひ合ひの友である。パックである。元より一時的の團體でフレンドシップやコンパニオンシップではない、集るものは烏合の衆だからあてにはならぬ。「おい貴樣何の爲にあんな奴と交つて居るのだ」といふと「何少し思ふことがあるのだ」などゝ平氣にすましこんてる。少し思ふことゝは何だらう。株を高く賣つて貰うとか、安くて買へるとか、美しい妻君を周旋してもらうとか、宜い金儲があるとか、何れまあそんな利害的の關係があるのだからたまらない。烏が旨い食物を得むが爲にがア〳〵いつて集るのとちつとも變つたことはない。第二種のものは

義理で出來たもので、いやでも友としての關係を依續せねばならないもの、例へば後見人だとか兄弟姉妹父子の關係だとかいふのがそれだ。後見人が如何にいやだと言つても父が死ぬる時分に遺言して賴で行つたもの、義理にも退けやう道がない。兄弟姉妹にもよくあることとて、昔から「兄弟は他人の本」と言つて居るのは其處だ。兄弟姉妹は元々同じ親から出たもので法律的に緣を切るわけには行かぬ。どんなにいやであつても交りだけはせねばならぬ。親子でもさうだ。此の程一女學生が來て「親が若し悪人であつたら殺してもいゝでしようか」と眞面目に尋ねられたことがあつた。恐ろしい話ではあるがこんな亂暴な親が偶には世の中に居るから猶以て恐ろしい。こないだも一封の手紙が來て「私の親は犯人ですか如何したら宜いでしよう」と尋ねてきたのである。親と子とには前にも云つた通り切つても切れぬ關係がある。他人の始めてある兄弟ですら左樣である。況や他人に於てをやだ。第三は愛に依て結ばれたるもの、是が眞の友誼である友人である。朋は月に非ずして鳳である。昔は月を二ッ幷べるのではなくして鳳を二ッ書いたものださうだ。鳳は人を引き付ける靈鳥で東西共に居る。此の珍らしい立派な鳥が二羽も幷て居るのが今日謂ふ所の友である。一羽でも珍らしいのに二羽も集つてくれるので難有さは二倍三倍百倍するに相違ない。之れが眞のフレンド friend で獨乙の所謂フロインド Freund である。フロイ即ち愛があつて此處に始めて友――眞の意味に於ける――友が出來るのである。

漸く本題にはいりかけたが是が即ちキリストの愛である。先づヨハネ傳第十五章を見給へ。

今より後われ爾を僕と稱ず。そは僕は其の主の行ことを知らざれば也。我さきに爾曹を友と呼べり。我爾曹に我が父より聞きし所のことを盡く告しに緣る。

面白い有難い聖句である。自分を先生と云はず旦那と呼はず主人と思はずして師弟の關係以外君臣上下の階

級を打破しやうと云ふ。自分が僕の地位に下るか。僕を自分の位置に高めるか何れにしても並行さして友と呼だキリストは豪いに相違ない。なぜか、キリストは天父より聞いたすべてのことを與へ盡したからである。僕とは一體何だらう。自己の意志（Flee-Will）を持たないもの、換言すれば主君の命令を絶對に遵奉すべきもの之である、右せよ、諾。左向け、諾。僕の理想は是だ。グリース有名の哲學者エピクテータス（Epictetus）は名前がちと可笑しいが奴嫌であつた、其の主人といふのは不幸にもつまらない男で能く人を苛める打つ。足を引つ張る。こんなことをして樂しむでゐる男だつた。或る日切りにエピクテータスが足を引つ張り擽ぢまわしては喜て居る。でエピクテータスはちと痛いので「さうなさると私の脚は折れますよ」といつた。其の中に主人はます〳〵脚をねぢまわしたので果して彼れの脚は折れて了つた。でエピクテータスはさもこそといはん斗りの顔付きで「さうら見て御覧なさい。今が今迄さう言つて居たぢやありませんか」と一向平氣なものであつた。流石は哲學者である。斯の如く何もかも主人まかせて少しの意志些の自由をも有せないものが僕である。無論今日では此の種の奴隷は居ない。が然し少しは居る。睡くても主人が手を拍ては諾といつて立たねばならぬ。空腹でも食事中でも、寒くつても熱くつても主人の命なら進で之を辨せねばならない。此等も可愛さうに人並で充分眠つて旨いものを喰べて見たいに違いない。然しそんな自由は出來ない。主人の仰せに服從せねばならない。キリストが弟子に敎へ給ふにも始めは一種の命令であつた。所が之からはみんな天父の敎へを知悉したのだから僕とはいはぬ友と呼ぶと仰宣つたのだ。かう考へてくると、同じ目的を以て同じ天父の意志を理解する者、是が眞の友達でキリストが友に對する精神であつた。語を換へて云へば己れを標準にとらず天父を以て唯一のスタンダードとし之を以て自己を解して居るものが眞の友である。

から云ふと何だか前にのべた愛の事實とは矛盾するやうだが決してさる氣遣はない。「私あの方好きよ」「あの方はほんとにいゝのよ」など云ふ。それも宜い。がまだ十分ではない。何か少し不足して居るものがある。互に氣の合ふた上に倘ほ天父の意志を理解する。是がほんとうの友人だ。ほんとうの友誼なのだ。クリスチヤンラブ、「基督敎徒の愛」といふのは正しく斯樣なものを指して言つたのである。

「望みも恐れも共におなじ」といふのが讃美歌の中にある。之は神に依ていつくしめるものは目的も希望も恐懼も同一になつて了ふ。たゞ氣が合ふといつても何だか茫漠としたもので男ならその調子で一杯やらうといふかも知れぬ。女なら乾度リボン會位は始まるだらう。だから眞にキリストの意志を了解した愛でなければ賴むには足らぬ。「望みも恐れも目的も唯一つとなる、」是が所謂眞のキリスト敎的愛である。私は之を名けて、ハイレベルヴアルチユー High-level Virtue といふ。といつても之は熟した語ではない。たゞ私が思ひ付いた一種の造語にすきないものだから一寸此處に斷りをして置く。

幾度も前に繰り返したやうに單に氣が合ふといふのみては到底眞の友とはいへぬ、謂はゞ水面の低いローレベルのヴアルチユーてある。男子などには殊に此の變りが多い。互に胸襟を開くなど云つて一杯飲み合ふことなどがある。然し此等は酒興に乘じて互に弱點をさらけだす位が關の山で何も得る所はない。即ち低き水面の友てある。こんな友誼なら捌摸兒などにも能くある。一杯飲んで怪しからぬ態をしてかうだあゝだと喋り出しては喧嘩になる。が亦感心なことには直ぐ仲直りをする。之れ互に暗い所があつて弱點を握り合つて居るので仕方がない。相方幾分づゝ疑懼の念が動いてきて元の通り仲よしになる。謂はゞ罪が彼等の媒介をするのだ。

だから親に孝養を盡すなどいふと彼等の仲間には嫌はれる。あはれな穢はしい友達ぢやないか。で私共は眞の友として天父の意思を了解して居るや否やを標準とせなければならぬ。

世の中には隨分口先きのみ達者て實行の鈍いものがある。が口先きだけても賢いのはせめてもの取り所だ。なぜならば立派なことを苟も口外した以上、さう下卑た行の出來る筈はないから、まあ幾分か恕してやるべきてある。世には又僞小人といふものがあつて一見小人のやうに別にえらいことも何も言はぬが着々實行の上では立派な禮儀に叶つた行爲をなして居る。元より此の種の人は僞君子程多くはない。僞君子千人の中にせめて一人位なものてあらう。世の中に多いものは小人と僞君子だ。口先では如何にも聖哲のやうなことを云つて居るが實行は十分の一も出來ぬ。然し十遍に一度位實行の出來るのは或は口先きて立派なことを言つた結果てあるのかも知れぬ。人には相當に廉恥心といふ者が具つてるから自分の言つた語に對しても行はねばならぬといふ場合も起つて來るものである。だから實際には高き低度な友が實現せられないにしても互に話し合つて置くことは至極大切なことゝ思ふ。

私は御覧の通り立派な者ても何てもないが好い友達があつた爲に此の夏も御陰で涼しい白地の服を着て赤い衣を着ることだけは免れて居る。今此等のことを考へてみると非常に難有心持がする。私は十四五歳の頃五六人の親しい友があつたが皆相應な地位を保つて居る。此等の舊友に會ふと、職業や宗教的思想、人生の觀方などこそ隨分違つて居るが心持は少しも變らぬ。及ばずながら共に〱天父の意を盡さうといふのてある。此の中には思想が深くて學問の廣い内村鑑三君や、三宅君の如き兄分も居る。此等の人達と上野の大佛あたりを夜の十二時頃散歩しながら碗豆を買つて立ち喰ひをしながら話し會つたことも、今日から見れば非常に懐かし

い、今私が赤い衣物も着ずして三度の食事を無事に喰べて行けるのも皆之が爲だと思つて窃に感謝して居る。(笑聲起る)

然し一方から考へて見ると吾等は亦友たるに耻ぢぬ人格と人に愛せらるゝだけの價値を有するといふことも必要である。さつきから度々云つてる通り互に氣が合ふというやうなそんな低い低度の友ではなく直に天父の意志を了解するものが欲しいのだ。と云つてもどうせ弱點のある人間だ。世の中にさう神樣のやうに完全なものばかりは居ない。否何れ人間と生れた以上は不完全なものにきまつて居る。だから人の弱點を採がさないで善い所のみをみる、キリストの御友達てあつたピーター、チョン、ゼームスの如き皆全然相反せる性格の人であつたが、然し或る點——天父の意志を了解せりといふ——點に於ては同一であつた。此の點に於て立派な眞の友情が成り立つたのである。だから氣に合ふとか氣に合はぬとかいふことは友情の上に於てさして重大な意味を持つては居ない、唯天父の意志を了解せりや否やが大事である。此處に眉間に疵を有つてる男があるとする。何だかいやだ、氣に喰はないやうな心持がする。之は棧間しいやうたが實際である。然し其の男が軍人で　さる激戰の時、砲煙彈雨を犯して戰友を救はんが爲に紀念として與へられた疵であると知つたら如何だらう。そんな高尙な意味のものなら三つも四つも欲しくなるに違ひない。心の疵だつて左樣だ。彼の人は妙に心がねぢけている。が然し其の家庭の紊亂——生みの母が居なくて繼母に苛められ、異母弟に邪魔物にせられ——あらゆる苦しみ悲みの結果であると知つたら其處に同情の淚が流れないであらうか、自分がもしか其の境遇にあつたのならば如何であつたらう。とうに死んで居たのかも知れぬ。それにしては彼の人はよくもまあ我慢をし忍耐をしたものであると憎しみよりか感服の淚が先きに立つて來る。どうか他人の罪は出來得る限り許してやり

たいものだ。そしていゝ方面にのみ眼を注いてやりたい。昔管仲は敵と戰つて遁げた。時人は之を怯者と呼むだ。然し其の友人である鮑叔は何と云つた。彼は家に老父を有して居る。父老ひたるが爲めに管仲は生命を全うしたのだ。孝なる哉管仲、孝なる哉管仲と賞嘆したてはないか。私共は出來ることなら鮑叔のやうな心の人になつてみたいと思ふ。

試に一部の傳記を取つて讀むてみる。一頁二頁目位まではまあ無難であるが三頁四頁になると悲哀の色がほのみえる。十頁二十頁となると死を以て筆を馳せたものが多い。ユーゴーの哀史を見ても直ぐにわかる。人は必ず懐中の哀史 La Miserable を有つてるものである。何もユーゴーの作物に限つたわけのものではあるまい。友をなくして始めて友情の有難味を悟る。けれども既に遲い。幾ら悲むでみても一度ミスした友は歸らない。古歌に「知らざりき佛と共に隣りして、あけ暮しける我身なりしを」とあるが誠にさうだ。友を失つて成る程彼はえらかつた……と悟ることが往々にしてある。あゝちつとも知らなかつた、我は佛樣と共にあけ暮した者を……あゝ共に歌つた友人、共にあの淸き木陰に遊び戲れた友！形體は既に消え散して僅に友の人格 Personality のみが眼前に殘されて居る時に佛樣とはあんなものかしらと始めて心の眼を開くことがよく我等の中にある。獨乙に有名なウヰーランドといふ文學者が居たが一日ネーカーの渡船場を渡らうとする時嘗て同行した二友のことを思ひ起した。一人は老人で一人は青年であつた。若い男は血氣にはやつて遂に、戰塵一滴の露と消え、老人は衰弱の爲め既に此の世を辭して了た。見渡せば水勢蕩々、綠樹の間古城の姿、山の形、舷を打つ小波も昔ながらに些の異變はないが唯船中の樣は昔に變る未見の船頭、懐かしい二人の友が見えぬ。あゝ過ぎつる日共に樂しく語り笑ひし友、永久相見るの機がないと思ふと淋しさの念が鋭く胸を打つて來る。やが

では形骸以上直接に靈と靈とが相接して昔の友を呼び相語つて居るやうて、考へてみれば二人の友は亦新らしう生れ變つてきてのではあるまいか。などと一念昔の親しき友情を偲むで居る中に、船はいつしか向ふの岸に着いた。て船を出る時、船頭に向て三人分の賃金を拂つて今僕の外に二人程友人が乘り込むで居たから……といつて岸に上つて往つたと書いて居る。此の詩はミス、オースチンの英譯が出來て居るが之こそ眞のクリスチャンだ。身體はなくても靈はある。バデイーはなくても生きたソールが働いて居る。之が所謂眞の友誼で一歩を進めたものがキリストエスの友誼である。（七月十七日講演）

基督敎家庭

井深花子女史

一體基督敎家庭とは如何な家庭でありましよう。誰に依て支配を受けて居るものでございましようか。私は云ふ迄もなく天國のやうな地上の小王國であらうと信じて居ります。そこて此の小王國を支配して下さる方は勿論エホバの神でございます、此の意味の家庭でなかつたならば信徒の數が如何に澤山でございましても眞の意味に於ける基督敎家庭とは申されませぬ。第一支配者がヱホバの神であつて始めて地上の天國たる小王國を形成することが出來ると信じます。

で此の美しい地上の小王國たる基督敎家庭に於て第一に必要なものは禮拜であります。神に捧げものをする家族の拜禮をして神様の御旨を行ふてゆくことが、次に大事な務であります。エホバが正義愛の神様である以

上其の御旨を奉する家庭に於きましても亦正義と愛との要素がなくてはなりませぬ。私は故に禮拜を別て三つと致します。第一は神の事業の爲に献金をすること。之は後て少しく詳しく申し上げる積りてすが前にも述べました通り基督教家庭は地上の小天國で其の支配者たる王はエホバてある。て此の王樣に向て祈りをする。と申しましても朝夕單に集りをするといふのてはなくて眞心から禮拜祈禱するといふ心掛けが大事てあります。第二には禮節ある家庭てあつて愛を以て和いて居ることが必要であると思ひます。何が心配だと申しましても家庭の禮儀が亂れて長者を敬する感念の日に日に衰へて參りまする程憂ふべきことはありませぬ。此等のとに注意して家庭を出來得る限り麗しく温かにして行くとは萬人の希望する所でありますから苟も美しい家庭を拵えやうと思いましたならば先づ此の禮儀を以て中心とすることが必要であります。殊に基督教の家庭に於きましては此の禮儀と愛とが特に重要なものとなつてまゐります、愛すると申しましても小供を叱らぬとか小言を言つてはならぬとかいふ意味てはありませぬ。時と場合に依つては小言を云い叱つてやることが又隨分と眞の愛に叶ふこともあります。何事にも年長者は子弟を氣儘にさして只降參讓歩するといふことになりますれば若い者は愈以て威張つてまゐります。之が大なる弊害て私共が格別に注意する價値があらうと考へます。勿論禮拜を以て交る上に何も資格ばつて勿體ぶることは不要てありましよが親しみの中にも一絲亂れぬ禮節の感念を依續することは家庭を淸らにする上に於て極めて大切なことてあると存じます。又今一ッの愛に就て申しますれば餘り人樣より愛せられやうと云ふよりも自分から進て愛して上げようと云ふ方が一歩を進めて居ると思ひます。唯一心に人の愛を求めやうとすると稍ともすれば卑屈な愛に流れ易いものであります。のみならず家庭の中でも只自分一個を本位として一意愛してもらいたいといふとになりますれば地上の樂園は忽ち暗黒の雲に包

まれて悲風慘雨の狀態に陷るかもしれませぬ。で私は「人に愛せられる」といふよりも「人を愛する」といふことが大事てあると信じます。次には家庭に秘密のないことてありますが、家庭に秘密のある程みづくさいことはありませぬ。親に秘め妻に秘し夫に話されないといふことのあるのは家庭にとりては大なる不和の本てあります。勿論小供の前ては何も知らしむといふことは却て害あつて益のないことてすが夫婦の間には少くとも此の秘密の幕を取り掃つて置く必要があると存じます。家庭の秘密は兎に角或る人に公然と明かされない暗い病ましい事實の潜在を證して居ります。家庭の一部に暗黑面が出來て居てどうして和樂の光を歡受することが出來ましようか。ですから私は基督敎徒の一要素として家庭間の秘密、もつと密接に申しますれば夫婦間の秘密を全然排斥致したいと存じます。次には純潔なる趣味を有つて居ることが必要であります。家庭趣味の純潔を圖ることは事實容易ならぬことゝて僅かな事柄でも不知不識の間に大なる影響を及ぼすものである。近年のやうに讀み物の盛な時代に於きましては特に注意をして撰擇の任に當らなければなりませぬ。と申しましても一家内すべてが同一なる趣味を有つて居るといふことは又一方から考へて見れば家庭に進步のない一證かとも思はれます。けれども誘惑も墮落も多くは進步の楷梯に伴ふ事實に考へ至りましたならば主婦たるものは此の際大に警醒しなければなりませぬ。近頃の小說を讀て見まするとに心持よく讀み終らする力あるものは實に稀てあります。よし一度讀み通してみましても後に殘つて居るものは誠に少ないのであります。一度讀だ中ていやな感じを與へられた部分はなか〳〵忘れられぬもので時々思ひ出しては少からぬ修養の妨けを致すものでムいます。私が米國に居りまする時分桑港に元は大變に嚴格なクリスチャンの家庭て小供の讀み物や小說などにも十分吟味を加へ注意を致して居た家庭がありましたが十年後久しぶりに訪問致してみまするると棚には數種の小說

がのせてある。取てみまするとと皆驚くべきものばかりて心より喜て健全な家庭に迎へられさうもない種類の者て十年前の讀み物に比して慥かに味趣の退歩を示して居ることがわかりました。其後四五年も立たぬ中に此家庭には聞くに忍びない評判を立てられて精神的に墮落して了ひましたそうであります。之は勿論不良の小説を讀だ結果であるか、但しは又家庭精神の亂れた爲に不良の讀み物を歡迎するやうになりましたのか、何れに致しましても家庭と其の讀み物との密接強固なる關係のあることだけは御推測がまゐることゝ存じます。翻て思ひまするに今日我國に流行致して居りまする小説雜誌の中で公然と家庭に迎へらるべきものが果して何の位ありましようか、名高いもの、よく流行する讀み物の中に却て品格を引き下げやうとするものが少からぬやうに聞及びますから、皆さんは例令學校に御出になりましても何處にいらしつても讀み物は必ずさる人の鑑定を乞ふた上に手に觸れるといふやうにするのが一番安全であらうと思ひます。

次には勤勉なる家庭であります。基督教家庭はどこまでも勤勉でなければならぬといふことであります。何方に致しましても信者の方は一切を神様にお任せするやうにと敎へられますけれども自ら進で働くやうにとは明かに敎へられないのであります。人は勿論向上心がなくてはなりませぬ。上に向て進みたい進歩したいといふ觀念が極めて必要であります。私は之を二つに分けて、第一を人格的向上心とし第二を肉體的向上心と致します。人は心の爲に肉の爲に靈性の爲に乃至は肉體の爲に飽く迄も努力しなければなりませぬ。神様を信仰致しますると「明日は明日の事を思ひわづらへ、一日の苦勞は一日にて足れり」と敎へられるものですから何だか今日主義に流れて勤勞刻苦の精神を殺がれ易いやうな傾向が見えます。之は大きな誤解で「明日は明日の事を思わづらへ」といふ眞意を汲まない謬見であると存じます。金錢のある人も無い人も苟も健全な手足を神

様に與へられた以上、出來得るだけ働きを致しまするのが聖旨であります。働かずとも神様は何か職業を授けて下さいましようなどゝ漠とした希望を抱いて居るものは眞に聖旨を解して居るものとは思ひませぬ。ユダヤの金言に「自活の道を敎へざるものは人に盗を敎ふるに等し」とありますが、之れ或は猶太人か至る所巨萬の富を積むで世界金融の咽喉を扼して居る一大源因であるかも知れませぬ。何れにしても「如何なことでもやる」といふ精神が肝要でございます。かくて獨立心が勃興してまゐります。青年男子の中には獨立すべき時期になりましても何處か資産家の養子に行きたいなどと女々しい考を有つて居る方も多いさうでございます。親族は構つてくれぬ、親しい友も「こゝは」となると冷淡であるなどゝ云ふのは最早獨立心のない一證であると存じます。私は米國を辭して日本に歸りまする時分先方で用ひました衣類なども澤山にございましたが、必要のないものと考へまして大抵は苦しい人貧しい人達に分けてやりましたので行李も大半空虚になつてしまいました。日本に歸つてまゐりますると或る友達の方が、あなたは昔風の衣類ばかし着てゐらつしやいますが、近頃流行のものも一枚整へては如何か」と親切にも御忠告下さいました。私は當時是れ程迄神様が道を開いて下さつたのだから今更姉妹の腿をかぢるのも本意ないと存じましたので、もし私が御友達を三年間病院に入れて不自由なく看護することの出來る身分になりましたら新流行の衣類を求めましようとお答へを致しましたのでございます。兎に角人は獨立をするといふことが至極大切であります。學校に勉强しておりまする間でも冗費を節して幾分かの貯蓄をする、之が即ち獨立の心を養ふ一助でありましよう、ありつたけの金錢を消費してさあ困つた、友達の袖にすがつて恵みを求める。之は全く神様を誤れるもので大なる失禮不敬虔の所業と存じます人は飽く迄も勤勉でなければなりませぬ。誠心を以て行りまする職業に貴賤差別のあらう筈はございませぬ。

「何でもやる」といふ精神は獨立心涵養の一助としても、至極必要なことゝ信じて居ります。

今申し上げましたことは少し重複するかもしれませぬが勤勉の結果蓄へ上げた財産は又正しく之を散するといふことが大切であります。「正しく貯へて賢く散ずる」。此の主義が極めて必要であります。殊に一家の主婦たる人は無益に金錢を費さぬと同時に賢く散ずるといふ心掛けがなくてはなりませぬ。前に献金と申しましたのは之てございます。世の中の人は献金の意義を取り違へて居るやうに思ひますが献金ではなくて實は返金てありましよう「神のものをお返しする。之は人として正當の義務ではありますまいか。勿論神樣は返せとは仰宣いませぬ。すべてを捧げよともお望みなさいませぬ。人は衣食の爲めに必要品の爲めに相當な失費を要するものてありますから皆が皆献金するといふことは出來ませぬ。て西洋では額を定めて献金する方法が設けてございます。即ち收入の十分の一を献金として用ふるのでございますが、私が鳥取に居りまする時分收入の十分一と申しますると大變多額になりますが、——と驚いて居た信者の方がありましたが十分の一が多額でありまするなら十分の九は尙更ら多額でありましよう。此の多額の收入を下さる恩寵だけでも神樣に感謝する理由は充分にあると信じます私も此の十分一献金の組合にはいつて居りまするが之は廣く奬勵すべきことではあるまいかと存じて居ります。

一體日本人は概して生活の方法が下手である爲に費のみ多くて爲すべきことが非常に澤山であります。之は今日教育ある婦人方が主婦として大に改めて貰はねばならねことゝ存じます。かやうに申しますると私は良心の何處かにやましい囁が起つて來るやうに存じまするが、私もちと常識に缺けて居るものと見えまして思ふ通りに參りませぬ。て私は手本を示すといふ意味ではなく、只感して居ることだけをお話したといふことを御

承知下さいまするやう願つて置きたいのであります。

只今申し上げましたことをかい摘むで申してみまするると第一基督教家庭は美しき地上天國で、エホバの御神の支配下にあること、エホバが主人公で王様である以上禮拜を以て朝夕仕へまつること。そして禮拜は正義と愛と献金とに依ること。第二禮節ある家庭で長者を尊敬する美風を養成すること。第三、キリス教は律を守る宗教であるが故に眞の愛を以て人に接すること。第四家庭に秘密のなきこと。第五、純潔なること、第六勤勉なること、此の中には人格の向上と知識の向上とを以て心身の勞働を惜まざること即ち獨立心――勞働心――の發揮を勉むること。第七正しく貯へて賢く散すること此等の美風を以て年少者は長老を敬し相愛の念を以て秘密の幕を徹し一意此等の理想に向て奮進せなければなりませぬ。かくて和樂の氣は家の内外に溢れて人生の幸福は求めずとも得られることゝ信じます。

終りに一言申し述べて置きたいことは、すべてのことと滿足と喜悦とを以て働きたい。何をなすにもコンテントする。ウォリングサーに行る。之が私の第一の希望でございます。文句が違つて居るか知れませぬがこんな歌を記臆して居ります。「あすも亦朝とく起きて勵まなむ、窓に嬉しき有明の月」望みと滿足とを以て一日の務を終へ、すみ渡る一痕の月に對してあすも亦嬉しい樂しい一日を送らうと歌ふ精神は何と立派ではありますまいか。「窓に嬉しき有明の月」基教信者はすべてかくあつて欲しいものと存じます。（七月十八日講演）

朝鮮傳導

東京青年會名譽主事　丹羽清次郎氏

私は逐此の間朝鮮より歸つて參りましたが視察の日數が僅々一週間たらずであつた爲め勿論全體的にお話しするといふことは困難かと存じます。けれども一週間の見聞談を部分的にお話しても決して益のないことではあるまいと思ひまして實は此に立つた次第であります。

朝鮮の面積は一萬四千方里で日本の三分の二位にも當りましようか。朝鮮々と唯一口に申しましても仲々大きなもので馬鹿にならぬ國柄である。人口はと云ふと千二百萬といふ統計になつて居るから日本人口の四分の一強に當るわけであります。此の面積と人口とを有する朝鮮に對して我國民が重大なる責任を帶びて居ることは勿論であるが、世界强國環視の裡に立て能く開發し誘導するといふことは最も大切なる任務の一であると信じます。古來歷史を異にし感情風俗を別にする一國を保護して征服の實を擧げるといふやうなことは非常に困難な一大事業で、英の印度に於ける、合衆國のフヒリッピンに於ける事實に徵するも少なからぬ困難と時日とを要することは明白であります。私は滯韓中統監府の有志に會して其の內情を聞き取りました時に朝鮮教化の決して容易ならぬことを悟りました。「始は宣教師何かあると輕忽に考へて居たのが一歩を進めて見るとどうしても宣教師を通じて韓民に統監の意志を通ずることの必要なることを感じた」とはさる有志の直話であります。

更に進て朝鮮の位地風俗などに就て大要考へて見ますると、緯度は日本本土の青森から西、下の關に至る地位と略同一であるといつても差支はありますまい。故に氣候風土などに就てはたいした變化はないが國が大陸

續きてありまするので萬事が極端に行つているやうに思はれる。私が彼の地に參りましたのは既に一月も前のことですが暑さはなか〳〵に酷い。日中歩行でもしようものなら流汗衣を濕すといふ程ですが、夜分になると流石非常に涼しくなります。此の涼味あつて始めて日中の苦を忘られるものだと思ひました。冬期に入ると又格別の寒さで、家々には皆「オントロー」といつて床下に松杉などを燃いて床を温め寒氣を防ぐのが常である。窓は至て小さい。地を堀るといつても却て鍬が飛び耳が切れるといふ有樣であるから冬期はまづオントロの中で無爲にして忍むで居るより外はない。斯樣な具合で家屋の建方などは大抵冬の寒さを凌ぐやうに出來てるので夏の夜分など如何に涼しいと言つても迚も室內では凌げやう筈はないで、彼等は大道へ出て涼を納れながらゴロ〳〵とねころんで了ふ。之も近頃は警察の方で嚴しく取締りを付けて居るので幾分か減少して居るやうに思はれます。

朝鮮の家といふと或人は海鼠が彼處此處に眠つて居るやうだと申しますが私は「龜が其の子を蔽ふ爲に陸に上つて靜止して居やうな形」といつた方がより多く中つてはいないかと考へて居ります。色は極煤色で能く龜の甲に似て居る。統監府の高地から一面を見下して見ると前云つたやうで實に異樣に見える。宮城の外、市には二階立の家はない。そして屋內の室は極く小さく限られ婦人は一室に閉ぢ籠つて良人の外には一切男子に顏も向けないといふ有樣であります。

風俗習慣などに至ては日本などと大同小異でさしたる變化はありませぬ。日本は男尊女卑の國だと云ふが家庭に於ては決して左樣でない。母は一家の主權を有つて居て其の一言一行非常な力があるやうに、朝鮮でも此面影を偲ぶことが出來る。男子相互の口論や紛擾なども女の一言で能く之を和解せしむることがある。従て男子

が女を守るといふことは大なる務とせられて居る。聞く所に依ると――ちと大膽な話ではあるが――日本人で餘り朝鮮の事情に慣れない男が夏の日、裸體のまゝで心地よげに小川の畔りで水をつかつた。すると其の附近の洗濯をして居た朝鮮の一婦人が此の有様を見て非常に怒つたらしく其の儘何處ともなく姿を隠してしまつた。やがて暫く立つと村の男達が數十人もやつてきて怒鳴りつける。何事かと聞いて見ると「お前は婦人の前で非常な無禮を働いた。もう生命はないから覺悟をしろと云ふのである。其の男は吃驚して機を見て逸早く逃げ歸つたさうだが、彼の地では婦人に對しては些の無禮をも加へぬといふことになつて居るさうである。

學問はといふと至て低い。まづ千人の中漢學を味つて居るものは一二人しかない。統監府開始以來は教育事業も着々と進歩して現時に於ては立派な女學校なども澤山に設けられて居る。京城に居た時分、私は三ヶ所の女學校を觀た。一つは京都同志社出身の人が設立したもので嚴妃の保護をうけて居るもの。今一ッは英國人が經營して居るもので第三の者は宣教師がやつて居る女學校である。此等の學生は皆日本の風俗を採用して中には奇麗な廂に結てるものもあれば、可愛らしい垂髪のものも居る、日本語を使つて日本の服装をして一見何方か先生であるか生徒であるか判斷に苦しむ程である。市内を歩いて居ると老幼の別なく婦人は白いかつぎを着て顔容の一部を出して居るので、如何ゆう婦人で如何な女であるかは元より分解らう筈はない。けれども教育を受けた婦人方はだん／＼と此の習慣を破つて日本の婦人同様蝙蝠一本で歩いて居るといふ有様、髪は優美なマガレット風で目下の所、朝鮮の風俗は漸次日本化しつゝあるのは否むべからざる事實である。殊に奇麗で可愛らしいのは七ッ八ッの位の女の兒である。服は紅色の華な上着に、腰以下は西洋服のやうなバット開いた袴

風、髪は眞中から兩方に別けて結つて居るが實際お土產にして持つて歸りたい程奇麗で可愛らしい。汽車で朝鮮の内地を旅行すると必ず窓口よりして此等可憐の女兒が野に市に馳せまわつて居る美しい姿が見られる。けれども朝鮮は申す迄もなく一夫多妻の國である。又悪い習慣ではあるが「キーサン」といふのが居る。即ち日本の藝者である。然し奇體なことには此のキーサンが最も高い敎育を受けて居る。女學校の上級生は大抵此の「キーサン」で占領せられて居る有樣。一概に藝者といふと何だか私共の耳には嫌に下劣のやうに響いて來るが彼等は日本の藝者とは違つて客の席に出ても決して些の不都合もない。て私も丁度彼の地に居りました時分研究の爲めにさる「キーサン」の家を訪ねたが丁度學校から歸つたばかりの所で年は十三四、可愛らしい女の兒であつた。そこて書物はと尋ねてみると日韓兩國語で書いた動物學を出して大變に面白いものですと話して居ました。

此等は私が滯韓中一寸目に着いた部分的の話であるが、全體に就て觀察して見ますると韓國民は青年會や其の運動などに就ては將來大に囑望せられる國民であると信して居る。が可笑しことには汽車が始めて出來た時分餘りに珍らしいので田舍の方から一家擧つて辨當をこさえて一日汽車の通るのを見物してはのそ〳〵と歸つて行く男は長い煙管を出して煙草をふかしてゐる。或る時は一家を携へ、ありつだけの金錢を使て電車にのつては一日方々を乘りまわつて遊びくらす。そして家に歸ると早速喰ふ物がないので親類の家に行つて厄介になる。是は或る一面から觀ると成る程朝鮮國民の美德でもあらうが又大なる缺點で弊害でもある。日本でこそ「兄弟は他人の本」といつてるが彼等の間には親族相依り相扶くるといふことは非常に美しい道德となつて居る五人でも十人でも仔細なくかばつて共に粗食し節約して暮して行く。之は彼等に學ぶべき一大の美德ではある

が、又之あるが爲に勤勉の精神に缺けて居る一因を形作つて居るのかも知れぬ。勿論韓國民は懶惰で勤勉の威念に乏しい。其の理由は別に幾らもあるに違いない。例令ば富める人、蓄積ある人は所謂生命財産の安全が得られない爲めに自棄を起して働かない。蓄積をせない。偶に勤勉して幾分の富を貯へても夜陰竊かに地下を掘つて財貨の安全を圖る。かくの如く此の國には習慣として生命財産の保護が行屆かない爲めに大抵は其の日暮してある。將來を慮る爲に蓄積をせないのも考へて見れば無理のない話である。歸國前私は青年會に幹事を訪ねて何か印刷物でもあつたら參考の爲に頂戴して歸りたいから……と云ふと一切そんなものはないといふ。書類は一部もないとのことで實は私驚いてしまつた。此の事に就ては渡邊大審院長もさう話されたのですが朝鮮ては裁判の判決例といふべきものは一枚もない。從つて先例といふものもない。總てのことがかういふ風で、其日暮し、今日主義の流れは何處にも漫延して居る有樣である。

斯かる狀勢である朝鮮傳導の有樣は如何にとみると、今より三十年前までは嚴密なる鎖國主義を守つて基督敎などは到底立ち入ることは出來なかつたのである。然るに二十年十七八年前よりして亞米利加メソディスト敎派の宣敎師が難を犯して朝鮮傳導に志した。仁川釜山京城平城などは何れも好況を呈して居る。殊に平城などは驚くばかりの盛況で、敎會の如き優に一萬五千の信者を收容することが出來るが聽衆日に日に數を增して今では東南北の三ヶ所に敎會を新築して收容するといふ有樣である。然も中央敎堂が信者を以て溢れ〳〵るといふ盛況であるので祈禱禮拜を朝夕二部に別ち朝は男子部、夕は女子部として集會を開くことになつて居るが其れでも祈禱會の席などには二千三千の信者が集るといふのである。一昨年の冬、千人餘りの信者を地方に集めて冬期の講習を試み第一回目に凡そ五百人餘の信者を訓練し、更に又平城の五百人女子三百人を敎練して還し

たといふ。此等の人々が西に東に分れて實際傳導の任に當つて居るのである。試に韓國全體を通して幾何の信者が居るかといふと昨年の統計に依つて見ると其數實に拾壹萬三千百餘人となつて居る。韓國青年會事業の中殊に我等が注意して學ぶべきことは、彼等が始めより自立して敎會經營の任に當り傳導費一切を自辨して外國の援助を借りない一事である。就中平城などに於ては韓民が主として敎會を建て傳導費を負擔し給料を拂つて自分達は決して敎師や宣敎師などになれないものと自覺して居た。處に先年本多先生が韓國に參られて親しく宗務を統べられるといふことになつたので韓國民は日本人でも牧師や宣敎師になれるのかと思つて吃驚したといふ話である。彼等韓國民が一切を負擔して他國の輔助を借りないといふことは大なる敎訓であるが、其れは別問題として兎に角北韓地方の敎會が此の如き狀勢にあるのは大に喜ぶべき現象である。殊に冬期學校を設けて信者を訓練し、此等の人々が東西に散じて道を傳ふる結果は新しい信者を得て愈敎會の基礎を固める。神國建設の爲大に祝すべきことであると思ふ。で此の程レヴィス氏が參られた時に此の話を聞いて是は必ず神が韓國民を惠むで下さるのである。もし此の恩寵が無かつたならば昨年新皇帝が即位せられ軍隊の全部を廢し給ふて以來今日まで暴徒が殘つて居るが、此の中に信徒の幾分が居て韓民を誘導せなかつたならば、もつと大なる異變を生じたに違いない。と申されたが事實さうであらうと思ふ。

私は朝鮮に參る眞際までかういふ考へを有つて居た。といふのは韓國に於ける基督敎信者は其の總てが自己の生命財產を保護して貰はむが爲に集るのである。と斯う考へて居たのである。處て實際に詳しく調べて見ると自個の豫想の大に誤れるを發見して窃に喜悅と希望との光に打たれたのである。勿論中にはさる考のものも居るが其の先導者ともいふべき人々は決してさる單純な動機の者ではない。大凡そ神の定め給ふた主君に

は飽く迄も從順でなければならぬといふが、成る程さう云ふ風も見えないではない、あながち外國の袖に隱れて其保護を受けようとはかしは考へて居らぬ。先き程も申し上げたやうに傳導事業は各自獨立して負擔し活動しつゝあるが其の運動の爲めに費す金額は實に拾貳萬六千餘圓の多きに上つて居るのである。此の貧弱國にして拾貳萬餘圓の失費は大したものであると思ふ。神の事業の爲に多大の費を惜まず、忙しい中にも神の禮拜を怠らぬ現况に照らして見ると、如何(どう)しても眞の信者(まことのクリスチャン)が蔚然として頭(かしら)を上げつゝあると信ずるのである。或人は之程基督教徒の中で進歩したものは外に類例がないといつたが、又一方から考へて見るとさる宣教師が嘆聲を洩したやうに、韓國現時の盛况は大に喜ぶべきだが今に其反動がくるのかも知れぬ。即ち韓國民現在の知識は實に幼稚である。宛然我が維新當時の狀態に酷似して居る。然かも彼等の上下を通じて教育の程度は日に愈増進しつゝある。かくの如き狀勢を以て進で行くことになると早晩彼等は今迄のやうな極めて單純な思想を以て宗教に對せなくなるに相違ない。否大に研究的態度を取つて信條を批判的(クリチカル)に見るやうになるのかも知れぬ。之は生ける信仰を鼓吹する任に當る人の大に注意を要する所であらうと思ふ。

今一歩を進めて述べて置きたいことは在韓同胞の現狀である。目下京城には純粹な市民として貳萬五千の同胞が居るし之に在駐の官民を加へると優に參萬以上に上るのである。其他平城にも數千の同胞が居るし釜山などは全然日本人の市街であるといつても宜い位で、此の地に居ると少しも朝鮮に居るやうな氣持はせない。兎に角在韓の日本移住民の總數を合算してみると慥かに拾萬はある。或は其れ以上であるかも知れぬ。單に京城や平城、釜山仁川などの都會地のみならず、極めて小さな村落にも豆腐屋の一つ位は出來て居るといふ有樣で韓國至る所、日本人の居ない部分はない。是等に就て見るも在韓の我が同胞兄弟に對して神の道を傳ふるとい

ふことは決して輕視すべきものではあるまい。況や在韓の同胞中には妻に別れ父母と離れて心中大に寂寥を感じて居るものが多い。或は種々の誘惑、種々の苦痛、不慮の災厄に接して心中痛手を負ふたものが何の位居るのかも知れない。幸ひ彼の地の渡邊君が靑年會に關係を有して居られる人で至極同感だといふことであるし三井物産の人々とも圖つて京城に始めて靑年會を起すことになりました。日本でも例へば廣島だとか名古屋だとかいふ所は少からず布教に困難を感ずる場所柄であるが、流石朝鮮の地は新興國だけに求道者に就て見るも至極簡便な點が多い。だから一方に於ては統監府と韓國民との間に立て傳導の事業を擴め、宣教師と靑年會の幹事とが互に相扶け相接したならば必ず大なる事業が出來上ると思ふ。此の程私の友人が統監に御目にかゝつた時統監は基督教の牧師と宣教師とが互に心を合せて韓民に道を傳へてくれるやうにと申されたさうであります。內地でもさうだが殊に韓國にあつては――かう云つてはちと變だが――大に威張れるものである。統監府を後に控えて居ると外國人の間にも大變にはゞがきく。戰勝國といふものは實に有りがたいものであると思ふ。

私は皆さんと共に今夕此で考へて見たいことは實際今韓地に居る我が十萬の同胞を如何にすべきかといふ問題である。彼等は今寂寥に苦しみ誘惑に悶えながら、何物かを希待しつゝあるのである。此等同胞の間に神の道を說き、キリストの救に入らしむる者は抑誰の責任であらう。皆樣に訴へて見たいといふのは此の一事てある。

私共の親しくして居る一外國の人で「一體日本の人々はミッショナリーネーションだ」と申された方がありましたが、能く〳〵考へて見ると此語の內には一種の失望的音調が交つては居ないか。誠に恥かしいお話してはあるが我が同胞の中て支那朝鮮に來て永久的に働いてみようと思つてる人が何人あるてしよう。支那文明の開

拓者指導者として彼の地に向ふ人々でもさうである。彼等は眞に支那を思ひ支那文明の開拓を一身に脊負つて居るの自覺があるだらうか。日本の維新當時に來朝したバーサーゼームスの如き獻身的指導者が果して幾人ある彼等の多くは報酬の多額なるに眼眩み、云ふにも足らぬ虛榮の風に煽り立てられるのである、あゝ衷心一片の赤誠を抱いて眞に自己天職の在る所を自覺し、身を捨て命を賭して淸韓開發の重任に當る此如き人が現代の要求する國民の聲である。神の御旨である。果して然らば此等天職の聲に應し、起てミッヨナリーの職に就くべき者は如何な人であらう。學才あり見識ある人たるは勿論のことだが、血氣充溢信仰胸に燃え立つ青年男女の方にして始めて此の天職を全ふすることが出來るのである。我がどる職責——福音を傳ふる職責ほど此の世に貴きものはない、といふ自覺を以てミッショナリーの任に當ることは我が品性を高め自己天職を全ふする上に於て極めて大切なことであると思ふ。此の事に就てはもう幾度かお話しをしたことであるが私は彼のドクトル、ラインハート氏のことを想起せずには居られないのである。

御存知かも知らむがラインハートは七八年前西藏傳導に力を盡し故國亞米利加に還つて永眠せられたのである。其の始めて西藏傳導の途に就かれしは今より十七八年前のことで夫婦協力して道の爲に全身を捧げて働いて居られたのであるが不幸にも良人は西藏人の爲に殺害せられて了つた。て彼の女は一度日本に來て故國に歸られたが、再度西藏傳導を試みむが爲め途中日本にも立寄られた。當時我が聞き得し言葉は今も尙ほ潑溂として胸裡に深き印象を殘して居るのである。

「私は今西藏人の爲めに道の爲に彼の地に趣かむとして居る。之は我が大なる愛で又神の命し給ふ使命と思ふのである。西藏人に對して私は些の怨恨をも抱いては居らぬ。能く迄も彼等の中に神の御國を建設したいと思ふて居る。此に集れる青年男女の中自己のベストを盡して

之が爲に一命を捧ぐことの出來るは大なる神の恩寵である。私は皆樣の中よりして斯かる人々の多數輩出せられむことを望む。

此の一語は啻にラインハート一個の語句たるに止まらず、實に主エスキリストが我等に明示し給ふ敎訓である。朝鮮の爲に乃至支那隣邦の爲に我等が身を挺して指導開拓の太任を全ふするのは之れ取りも直さずエスキリストが我等に命し給ふ天來の御聲である。我等は早晩起つて此切なる天意を奉體せなければならぬと思ふ。モラビアンに就て今一つ學ぶべきことは其の大なる標語である「我等の大任は最も輕視せられたる可憐の國民に向て傳導するに在り」といふ一語である。之は深く我等の熟考すべき妙句であると思ふ。今お話した朝鮮の傳導が其れてある私の友達が朝鮮へ行くことになつたが朝鮮!!と怪現な顔をした奥樣があつたさうだが、稍ともすると我等の心中にも此の奇怪至極な囁きが起ることがないとも限らぬ。モラビアンの最も生命とする所は傳導の一事にある。ホウエン When といへばナウ Now と答ふる。「君どうかグリーンランドに行つて呉れないか」「參りましよう」「何時?」「今」と云ふ。すべてが之てある。キリストの宣仰たやうに「我は人を使ふ爲でなく人に使はれむが爲に來た」のである。然も過去に亘り現在に亘て我が衷心に潛める野心の一念は極力妨害を加ふるのである。此の障害を打破して直接に神の御聲に接するのが我等大切の任務であると信ずるのてある。

此等に就て餘り皆樣に望むのは無理であるのかも知らぬ。然れど如何なる事にあつても「使ふ爲に非ずして使はれん爲に來れり」といふキリストの御敎を守ることが肝要てある。どうか彼の牧師の奥樣がいつたやうな間違のならやうに希望するのてある。一體婦人の言は弱いやうでも其の實非常に強い。友人より「馬鹿だ」と罵られるよりも家にあつて妻や妹などが「いけませぬ」と唯一言云つた言語がどの位力があるのかも知れぬ。そこて

兄弟の中に一家の中にエスキリストの愛を以て一貫して行くことは非常なる力であると思ふ。私は聖書に於て得たる一句よりして人に仕ふることの出來ない國民は決して大なるものでないと斷言するのである。此の如き國民を造ると否とは未來の良妻賢母たるべき皆樣の大なる責任であると信じます。（七月十九日講演）

素人傳導論

救世軍中佐、山室軍平氏

今日お話したいと云ふのは日曜學校の生徒も能く知つて居るサムエル前書第十七章ダビデ、ゴリアテの物語である題は可笑いが素人傳導に就て考ふるには屈强の物語である。昔ペリシテ人とイスラエル人と戰を開いた時にペリシテ人の陣中にガテのゴリアテといふ偉丈夫があつて體太く力强くイスラエルの陣中一人として、敵對するものもない。聖書には武器の目方なども見えてゐる。例へばゴリアテの身長が一丈一尺、赤銅の甲が二十一貫八百目で槍の鋒先きが二貫四百目もあつたと云ふ。是れ丈けでも既に其の魁偉たる風貌の一端は推摩することが出來やう。日本で言つたらば我こそは武藏の國の住人、篠黨の旗頭熊谷次郎直實とでも召乘りを揚くべき所である。此ゴリアテが一度陣頭に立て進み寄つて來ると、イスラエルの軍卒は誰一人進て相手にならうといふものもないたゞ恐れ戰いて陣中遁げ惑ふて居る。處がエサイといふ人の長子三人は同じくソール王に從て戰場に出て、季子はダビテといふてソールにも度々徃來はして居たが父と共に羊を牧ふのが日々の務めてあつた。或日のこと父はダビデに命して色々の食物を持たして陣中の兄を慰めにやつた。今でいつたら丁度慰問袋

位に當るだらうが當時は今日のやうに簡便な方法はなかつたのでダビデは父に命ぜられるまゝ三人の兄を見舞ふて父よりの贈り物を届けた。すると丁度向ふの谷間より現はれたのは例のゴリアテであるイスラエル人は其の姿をみるや痛く恐れて逃げかくれる樣子、ダビデには不審でならない兄に聞くと之も顔色を失つてる樣子て、「まあ何でもいゝから早く歸れ」とのことだが苟も神の軍中に唯一人の男が現はれて軍卒の膽をつぶすなんど人間として逆もあり得べきことゝも思へない て重ねて尋ねて見ると兄は怒つて歸れといふ。外の人々に聞くと何でもあのゴリアテといふ一匹の男を殺した人は過分な恩賞に與るいふダビデ益々分解らない。いくら大きいといつて強いといつても高が知れた一個の異邦人、活ける神の軍の前に何事をかなし得べき、さりとは情けないイスラエルの軍勢かなしと天を仰いで嘆聲を發した。此の事いつしか王樣の御耳に達したものとみえる。ソーロ王は此の羊飼の子ダビデを傍近く召し寄せて「汝は年少にして逆も彼ペリシテ人を迎えて戰ふ力量はあるまい彼は軍中唯一の勇士ぢやぞ」と宣へばダビデ王に向ひ、僕先きに獅子と態と戰ふて其の鬚をとらへて打ち殺したことがござりまする。高が知れたゴリアテの男、神の軍に射向ふすら過分であるのに人なき傍若無人の振舞、僕必ず打ち据へて御覧に供しまする」と大膽に申し上げたので王も幾分心丈夫と思召したのであらう。ては「往け、エホバの神は必ず汝を守り給はん」とはいつたものゝ生れが羊飼のダビテ刀劍甲冑のあらう筈もない。で王樣より拜領して武具に身を固めたが平素シャツ一枚のダビテにはどうも具合がわるい。甲冑をきる。肩がこつてならぬ。苦しく切なさの餘りに一切の武具を御辭退申して着の身着の儘の牧羊姿手に一本の杖を持ち谿間よりは五個の滑かな石を拾つて袋に入れ片手に投石索を執つてゴリアテに當た龍車に向ふ蟷螂の斧を奮ふとは正しく斯の事であらう。然も牧者のダビテには神がついて居る確固なる自信があつた。もし第一の石を投げ

損ねたらば第二の石でやつつける。第二を仕損したら第三、第四第五迄には乾度素願を達するに違いない…………かうダビテは固く信じて居たのである。やがてゴリアテは偉大の體軀を現した。小さな牧羊者のダビテは靜々とねらい寄つた。丸で獅子と鼠の喧嘩である。ペリシテ人は心中可笑しくてならない。「汝は何故に杖を持つて居るか我等の中には一人の犬も居ないぞ」と冷笑した。が、ダビテは飽く迄も神の御力を感じたのである。刹那に第一の石は宙を飛てゴリアテが眉間を深く射貫いた。彼は其の儘堂と地上に倒れて了つた。戰況は一變した。イスラエルは遂にペリシテ人を破つて終局の勝利を祝したのである。是は單に一個の昔物語ではなく、今も尚依續して起りつゝある戰である。私共は此の物語に就て大に學ぶべき理由を持つて居ると信ずるのである。

現世は大なる戰場である。修羅の巷である。善と惡との戰、正と不義との格闘、エボバと惡魔との爭、此等は常に活劇を演じつゝあるのである。否私共の心中にすらガデのゴリアテ如き豪の者が幾らも潜むで居る。是が爲にイスラエル軍勢たる正義の軍は何の位苦しめられて居るのかも知れぬ。ゴリアテは決して一人ではない幾らも居る。幾多のゴリアテが暴威を擅にして居るのである。私が見る第一のゴリアテは何であるか。酒である。此の面前に於ては幾多のイスラエル軍も逃げ隱れて了つた。ゴリアテは愈力を増してくる。何人か此の面前に射向ひ得る者があらう口實は何であるにもせよ、之が爲に身を滅す者が幾らあるか知れない。實業家も政治家も之が爲には失敗滅落の淵に沈だ。酒と親むだ爲に青年の多くは唯一の生命たる品性を損づて了つた。事業も滅び生命も枯れる。世に酒の力ほど恐ろしいものがあらうか。酒は今日罪惡の根源である。最も強力なるゴリアテである。此の外尚ほ情慾といふゴリアテが居て始終淸らかな胸裡の鏡を曇らして居る。金錢とい

ふゴリアテ名譽といふゴリアテさては虚榮といふゴリアテなどが絶えず凶暴の威を奮ふて居る。殊に虚榮のゴリアテに至ては婦人女子の胸中に多いやうにみえる。先頃大連の婦人會の手によりて海に投ぜんとする姉妹の女が危くも救ひ上げられた事實に接したのである。世にはかゝる不遇に泣いて居る婦人が幾らあるのかも知れぬ。金に積つてみると二人の女を救つて看護保助する費用は僅々十五圓内外に過ぎぬ。皆樣の頭にはいざ知らずだが普通の家庭では十五圓といふ金員はたいしたものではない。帶一本の爲に五十金百金を投じて居るものさへ少からず居る。此の帶一本の代價をもし不幸に沈み貧に泣ける婦人救助の爲に用ふることにすれば六十圓もあれば四人の可憐兒を危地より救ひ出して兎も角も力を與へることが出來る。然し悲しいことには人――殊に婦人――にありては自己の身邊を整ふるに汲々として一文半錢も他人の爲めだといふと惜しがるものが多い。同じ六十圓のお金を以て一本の帶を買つて一種の虚榮心を滿たした當時の心持と、世に捨てられて浮む瀬のない憐れな境遇にある四名の婦人を救ひ上げた心持とは何れが大であらう、否何れが神に喜ばれ眞に人生の意義を感知した行爲であらうか。私は單に婦人女子にのみ責むるものではない。今の政治家は如何である。果して利慾の爲に動かないものが幾何程居るか今の軍人は如何である成る程支那を打ち露西亞を破つた力は見醒ましい戰は強いが然し彼等の前には幾多のゴリアテが潛むで居るのである。彼等の多くは今やイスラエル軍隊の如き觀がある。ダビテは居ないか、幾多のダビテは現はれて凶暴なゴリアテを打ち挫かねばならぬ。人を導くべき筈の教育家が自己一身をすら統御し得ないで禍を社會に流して居るものが幾らも居る。人を敎へ善に導き神の敎を傳ふべき筈の宗教家學者記者などが却て人の子を賊うて居るのも少くはあるまい。私は切に思ふ。今や幾多のゴリアテと戰はむが爲めにどうしてもイスラエルのダビテが現はれて來ねばならぬ。神の恩寵を受け、眞

にエホバの力を感じた勇士がどうしても現出して世と戰ひ惡魔と競ふの勇氣がなければならぬ。人を救ひ世を導くのは必しも牧師宣教師のみの責任ではない。總ての基督教徒總ての青年男女が各自負擔して居る當然の義務である。否美しい德義である。善とか正義などいふものは決して自分一人で橫領すべき性質のものでない進で之を他人に及ぼし憐人に施す、此に始めて有終の美を發揮するのである。完美の境地に進み入るのである。

基督は何の爲に此の世に降誕せられたのであるか。謂ふ迄もなく萬人を「救主」たらしめむが爲である。總ての青年男女あらゆる基督教の人々をして救の道に入らしめむとの大御心に外ならぬ。前にも云つた通り人は決して自分のみ正善を行つても之を他人に及ぼさない間は眞に美しい德行高き人と云ふことは出來ぬ。萬人は等しく基督の心を以て心とするの覺悟が必要である。一人よがりの道德家は決して基督の喜び給ふ人物ではない。私は「願はくは我等をして彼の使徒時代の如くならしめよ」と絶叫したい。彼等使徒時代に於ける信者は行き着く先きに神の福音を傳へたのである。自己の信仰自己の正善を最もよく他人に移植したのである。吾等基督教徒は總べて此くの如くありたい。眞に神の愛を理解しキリストの心を心として一直線に進み行きたいものである。人の爲に他人の爲に自己を愛するの念慮は吾等が一日忽にすべきことではない。西洋で能く話される物語であるが一人の旅人が寒い冬の眞中にアルプスの山を越えて淋しい旅路を續けたことがあつた。すると一日のこと非常に眠くなつて今にも倒れさうであるが旅人は心を勵まし氣を引き立てゝ、もしも雪中眠くて倒れたならばもう再び目醒むる時がないと信じて一意心の駒を勵ましては雪の旅路を續けたのである。道は險しく目は眩む。旅人は今にも倒れさうになつた、すると突然脚下の方で何か觸れたものがある。雪を退けて見ると同じ旅出の一旅人が雪に埋れて倒れ死んで居る。早速衣を解いて胸に手を當てゝ見ると多少體温は殘つて居

る一生懸命になつて摩擦をし體を温めて勞つてやつたが、やがて旅人は息を吹き返して心より再生の恩を謝した。そして今にも眠さの爲め雪間に倒れさうであつた一旅客は人を救ひ蘇生せしむる爲に力の限りを盡したので自然體温と勇氣とを恢復して共共勇を皷し手を携へて再び雪の山路を急いださうである。人の爲に心の愛を捧ぐるものはいつも皆かうである。他人を愛するのは結局は大に自己を愛するといふことになるのである。

皆さんの中學校に居る時分には信仰のあつた方が學校を出た爲に　或は境遇の變化の爲に信仰を無くして了つた方も少くはあるまい。が私は此等の人々に忠告する。人は如何なる時、如何なる場合に於ても救はるへき必要を有つて居る。吾等は一日も神と離れ信仰と隔離して眞に意義ある生活を續くることは出來ぬ。信仰は決して空理でない空論でない誠心を以て神に依り賴むの念慮が肝要である。之が爲には時に兄弟と相反することもあらう。家族に背く場合がないとも限らぬ。けれども神の愛信仰の衷情は決して地上人事の其れと較一すべきものでない。心を磨き神を崇めて一意信仰の妙味に入るべきである。更に私は前言を繰返していふ。キリストは何の爲に地上に生れ給ひしか。萬人を救主たらしめむが爲である。すべての青年男女を救の道に入らしめむとの一念深き愛情の御旨に外ならぬ。されば苟もキリストの心を心として信仰の道に入らうとするものは神の福音を出來得る限り宣傳しなければならぬ、我れに其の資格なしと云ふ勿れ。神の愛を傳へ神の教へを宣ぶるに何の資格があらう。自己の衷情眞に神の愛を感得すれば其れで足りる。一念淸らかな誠の信仰があれば其れで結構である。ガテのゴリテアを破るものは必ずしも武具整然の軍卒ではなかつた。今や羊飼のダビテが起たねはならぬ。胸に强固の信仰を宿し眞に神の力を感知した信者の出現を待たねばならぬ、ムーデーは知名の説教家である。破れ一度壇に立てば數千の玉語は朗々として響いて來る。或る人が「あなたの說教は實に旨くて一語

肺腑に徹するの思がある。けれども惜しいかなあなたの言語（ことば）はすべて文法に外れて居る」と云つた。するとムーデーは笑ひながら「成る程私は文法は知らぬ。然し私の說敎は文法の爲ではない、神の爲である。神の道の爲めに戰つて居るのである。世には幾多の文法學者が居るが彼等は果して何をやつて居るのだらう」と答へられた。一語穿ち得て至極巧妙を極めて居る。活ける信仰を傳ふるが爲めに何も文法の有無に關する事はない。要は唯誠である。熱愛である。ムーデーの如きは眞に生ける神の力を日常生活の上に實驗したものである。我等も亦友を導く爲にキリストを愛するが爲には必ず日常生活の上に此の生ける神力を經驗せねばならぬ。守る爲の信仰でなく戰はむ爲の信仰である。世には幾多の獅子や熊の群が居る。我等は又之と戰はねばならぬ。ダビテと等しき力を以て救の力をも得なければならぬ。人の前に力なきものは神前に於ても亦力なきものである。神の敎を求め神の道を追ふて集るのはたゞ集るといふに非ずして神と共に生きむが爲である。古き歌に「あらためて孝行するは不孝なり大事の親のきもやつぶさむ」とある。一生懸命、勉めて孝行をしようなど〻するから不孝になるのだ。眞に戰ひつ〻あるものは何處に於ても同一の力を持ち出すのである。故に特殊の勞力を感じない元來私は演說法なるものを知らぬ。て「天よ」と云つても故ら（ことさら）に手を擧げたり變な目付をしたりすることは出來ぬ。神學とても碌に知らない。だからちつとも誤りをすることはない。此等の道具立は持たぬが神樣の爲に、或は道の爲めに十分盡すことは出來ると信じて居る。古い昔話の中にこんな物語がある。一日田舍男がさる學者に向て「短氣を起すことは惡るいに相違ないが如何したらば宜いてございましよう」と尋ねると學者は勘忍の二字を守れと敎へた。すると田舍男は「かんにん」は四字で二字ではございませんと云ふ。學者は、いや「かんにん」は勘忍だから二字であると云ひ張る。でも「かんにん」て丁度四字になります。いや二字だ。四字でござ

います。二字だ。四字です。二字だ。………學者の先生とう〳〵耐へきれなくなつて怒り出して了つた。すると田舍男は「さうら、見て御覽なさい。あなたの勘忍は二字だけれども私の「かんにん」は四字でございます。短い勘忍よりか長い「かんにん」の方が優つて居ると笑つたさうである。基督教界にも是に類したことが幾らもあるやうに思ふ。知らないのは知らないで宜い。孔子ではないが知らざるを知らずとするは之れ却て賢い人である能く知れる人である。奇跡はよしてもいゝ。知らないことは知らぬと廣言して決して耻づべきことではない。甲冑が手に餘るならば之は捨てゝも構ふまい。ダビデは着なれないといふので武具甲冑の一切を捨てゝ、五ツの小石を握つた。牧羊者としては誠に似つかしい服裝である。五ツの小石の中何れかで屹度素志を達げてみせる。是れである、我等の學ぶべき一大敎訓といふのは。ダビデはサウルの甲冑を辭して牧羊者の服裝を付けた。然もイスラエル軍勢がおぢ恐れて居たガテのゴリアテは遂に牧羊者ダビテが發したる第一の小石の下に倒れたのである、我等は必ずしも神學を要せない。代數や幾何を學ぶの必要もあるまい。哲學も信仰の前にはさしたる値を持つて居らぬ。只内に燃えて居る不動の誠、確固不拔の一念があれば其れで足りる。我等は十分吟味した五ツの小石を以て世にある幾多のゴリアテと戰ふべきである。之あれは十分神の爲め道の爲め正義の戰爭を戰ふことが出來ると思ふのである。然らば我が所謂五ツの小石とは何か。

第一に**現世の救**である。神の救を經驗せる事實である。語を換へて云へば現今に救はれて居る事實を考ふることである。ジヨン、ウエスレーが甞て亞米利加に行く時分、海中波荒れて船は今にも覆りさうになつた。ウエスレーの心甚だ以て穩かでない。彼が胸にも又澎湃たる萬丈の怒濤は狂ひ起つた。側にはモレビアン派の一婦人が居て女も子供も至極平穩で些の不安恐懼の色も見えない。て話の緒を進めてみると彼等母子はキリストを

以て救主であり且つ現在の救を信じて居たのである。自己は救はれ得べき者又現在救はれて居るとの觀念が强く彼の婦人を動かして居たので、澎湃たる怒濤の中にも尙ほ神の救は確固として彼等母子の胸を安むじ靜めたのであつた。ウエスレーは今更の樣に感嘆した。兎に角我等は昔の弟子達の樣にキリストと密着し神と共に居るといふ觀念が最も大切であらうと思ふ。第二の小石は愛である。愛情の向ふ所大抵の敵は必ず破れる。人に親切を施し愛情を以て接して行くことになると容易に人を服從することが出來る。世の冷かな裡には勿論同情も大切だし親切も必要である。然し眞に人を活かし人を慰むる者は淸き一念の愛情である。尊き神の愛である。私の友人の家に大變仲の悪い妻と姑とが居てどうゆふ理由があつたのかは知らむが、いつも苦い顏をして互に相反目して居た。て此の不和を療治せんが爲に朝夕二回必ず哥林多前書の十三章を讀むやうにと注意してやつたが其の後一ヶ月と經たぬ間に犬猿啻ならざりし嫁と姑とは次第に笑ひ合ふやうになり遂には握手して苦樂を共にする程になつた。愛の向ふ所に敵は居ない。百のゴリアテあるも淸き一念の愛情だにあらば決して恐るゝには足りないのである。第三の小石といふは祈禱である。皆樣の中には眞に祈禱の力を經驗せられたことがあるが。信仰厚き祈禱は實に不可思議の力を有するものである。チヨルヂ、ミユーラルの如き能く祈禱を以て人を救つた人である。彼は神に救はるべき人々の名前を帳簿に記し絕へず此等憐れの人々の爲に祈を捧げたのである。短きは四五日、長きは數ヶ月數年に亘り祈禱の詞を絕たぬ。或人の爲に彼は六十年の間切に祈つたのであるが救はれさうもない。けれども彼は其の後とても尙其の不幸な人の爲に祈禱を怠らず神の御救を求めて居たのである。實に大な祈りである。偉大なる力である。六十年の祈りは實に容易ならぬ赤誠と謂はねばならぬ。彼の死後其の德化を受けた人々が此の一人のブリストルの傳記を編せんが爲めにさる一人の婦人に會した時、

其の婦人が云ふのには我が父の爲に六十餘年の間絶えず誠心もて祈つて下すつた爲に死ぬる眞際には心より悔ひ改めて天國へ上つてまゐりましたと語つたさうである。祈禱の力は實に强い。ハウル氏の如き身は久しく病床に惱みながら友人知己の名前を手帳に記して床下に敷きながら「おゝ神よ、彼を惠み彼を救ひ玉へ」と祈つたのである。殊に私は祈に依て救はれた美しい一の物語を知つて居る。岡山に會計を務めて居る熱心な基督敎信者が居る。始め餘りの苦難に耐えきれないで家を出て信仰を捨てゝ何處ともなく旅出した。家には妻があり一人の娘も居る。彼等は父を失つて心より「我が父我夫を救ひ玉へ」と朝夕に祈つて居たのである。家を出た父は其の後東京に來て一意働いて居たが或日のこと所用あつて神戸まで行くことになつた。て序でだから岡山なる我家に行て見やうと小蒸汽に投じて神戸の港を出た。時は夏である。炎暑やくが如く海上も流石に熱苦しい。日は暮れた。船客は思ひ〳〵に甲板に出て夕の風に身を吹かして居る。例の男も二等船室から舵の方に倚つて海風に涼を納れた。四面は暗くして浪の音のみが鞺鞳と聞える。やがて俄かに腦を痛めて苦悶する中誤て海中に落ち込て了つた。夜は暗し船は進む。誰も知つてくれる人はない。浪は別に高いといふ程でもないが彼は不幸にして遊泳の術を心得て居らぬ。勿論泳ぐことも出來ぬ。が、ふいと麽般危急の時には身を掻いて騷ぐものてないといふことを思出したので心を靜め體を休めて居る中に幸にも顔だけは浮だ。彼は考へた家には妻があり娘が居て此の晩も鮀度祈つて居るに相違ない。が此の身は一體どうなるものであらう……と俄かに過ぎし信仰の焰が再び燃え立て心窃かに神の救を求めた。船は翌朝未明岡山に着いたが二等乗客の一人が居ない。て大騷ぎとなつて船長より死者としての手續をした。そこで岡山警察よりは直樣死去の電報を母子の許に送り届けた。然るに海上唯一人殘されて居た件の男は暫らく波に搖られて居たが幸に通行の汽船に救はれて岡山に安

着したのである。家には妻と娘が警察署より死去の電文に接して「おゝ父よ彼が罪を許し玉へ、我良人は許されて御國に參りしや否……」と涙と共に苦痛の祈りを捧げて居る最中に「タスカッタアンシンセヨ」との電報が良人の名前で到着した。母子の悲しみは急に喜びと變つた。苦痛は感謝の涙に拭はれた。斯くて妻と娘とが心切なる祈禱の誠は天なる父に受納せられたのである。罪は許された。彼は其の後一心に信仰の道を勵むで現に岡山教會の會計を務めて居る。祈りの力は強い。何物か此の誠心の矛先きに射向ふものがあらうぞ。祈れ。厚き信仰を以て。親き友の爲に愛する兄弟の爲に心を込めたる祈禱を捧げよ。

第四の小石は勤勞である。祈るばかりぢやない自ら進て働くのである。勉强するのである。自己の力で出來得る限りを盡すのである。ブース大將は「罪人を迫害せよ」といはれた。妙味ある言葉である、罪人を救はむが爲の迫害は尊むべきものである。未信者を信仰に入らしめん爲の迫害は喜ぶべきことである。私の尊敬して居る友人の一人は信仰問題に就て興味ある物語を與へて呉れた。友は熱心なるクリスチャンである。然し其の家庭――殊に嚴父の如き――は基督教大反對で男氣に强い頑强な人であるから愛兒が基督教信者になつて居るのさへ非常に心宜からず思つて居たのである。が兒は堅く信仰を守つて父の意に從はない。父は遂に愛兒を雪中に追ひ出して遂には殺して了うなどゝ怒り出した。て兒は窃に家を遁れて伊豫の今治に姿を隱し刻苦勉勵して一意神の道を勵むだのである。私が未だ十七八の頃同志社の生徒と共に「我父を信仰に導いてくれ」との依賴をうけて始めて其の家を訪ねた。始めは大變に厚遇せられたが基督教といふ言葉を聞いてからは碌に口もきかしてくれない。今日は忙しいから又にしてくれとの事で次の日改めて行く。又今日も忙はしいから……とことはられる。かくて六七度も肱鐵砲を喰はされたので、ては何時上つたらお隙でしようかと尋ねると、もう基督教のこ

となら一生止して呉れとのこと、取り付くべき島もない。處で友人は何と考へたのであらうか。一圓の紙幣で端書を百枚も買た（當時端書は一錢宛であつた）そして聖書の一句を書いては其の家の主人にあてゝ送り出す。かくて一日に二回より三回、毎日毎夜時を誤らず書き送るのである。そして二日目に一遍訪ねてみると端書はみんな裂いてしまつて讀まないのだから、そんな無駄はよしてくれとのこと、でも、友人はいや三度に一度は是非目を通して下さい。齕度何等かのお役に立ちますから………といつて精々端書を書き送るのてある。かくて遂には流石頑屈な父も此の男だてに感服してしまつてせめては月に一度宛でもといふ條件で此の家の座敷に説教會が開かれるといふことになつた。私も行た。友達は勿論説敎に行た。が巡査が來て「届てあるか」などゝいつては妙な顏をするといふ有様で今日の情勢とは非常の相違である。が兎に角かくして友を救ふと共に、友の父は神に救はれたのである。人は單に拱手傍觀するのみては足りない。大に勤め勵むべし。罪の爲に惱みつゝある友の爲めにも又大に勵まし心を盡して祈りを捧ぐべきである。第五の小石は忍耐である。根氣強くやれといふことである「人を殺さば血を見るべく人を救はゞ終りを見よ」といふ言葉があるが至言てある。惡魔にも一部の見處はある。即ち根氣の好い所である。我等は惡魔よりして此の長所を學ばねばならぬ。彼等は救主キリストをさへ誘惑したてはないか。惡魔と雖も滿更ら捨てたものてはない。大に同情して此の長所を取り入るべきである。那翁は英人に一の恐るべき特性がある「彼等は敗北を知らずして進むのである。自れ敗れたるを知らずして進軍する。是程强いものはない」と云つた。我等の大に味ふべき敎訓である。

以上五個の小石――現在の救と愛と祈禱と勤勉と忍耐――は我等が此の世と戰はむが爲に必ず用意すべき無上の利器である。ダビデは神の力を感じたのである。エホバは牧羊者を守り給ふた。嚢に入れたる五ッの小石、

片手に持したる一木の杖、元より之れ牧羊者ダビデが石である杖である。然もヱホバの祝福を受けた刹那牧羊者の杖ダビデの小石は神の杖、神の石となつた。神の向ひ給ふ所に破れないものはない。ダビデの石は神の石である。故に區々の少年が投げたる一ッの小石は堂々たるイスラエルの大國を救ふた。然り若し吾等にキリストの靈、神の祝福だにあらば國家を救ひ社會を救ふことは易々たるものと信ずる。（七月二十日閉會演説大要）

萬軍のヱホバのたまふ
是は權勢によらず
能力に由らず
我靈に由る也



イエス曰けるは
我は途なり
眞なり
生命なり
（ヨハネ四〇六）



基督教徒の生活

柏井園氏

左の一文は七月二十日柏井先生の講義を横濱山手共立女學校靑年會員某氏が筆記せられたるもの寄稿者の姓名を逸したるは千秋の遺憾なるも有益にして興味深き一節なるを以て此に載錄することゝなせり。（一記者）

基督教の根本眞理より生ずる生活の事實

献　身（肉體の聖化／活ける獻身）

根本的更新（世と同化すること勿れ／思想を新にすることに依りて變化せよ）

思想……品性……智識……

神の意志を實驗す

穩健適功の思想――自己の地位を知る

羅馬書十二章の一節の始めに「然らば」と云ふ詞あり之は思想と實際と結合せんとする所に用ゆる根本的教理なり「以」は依りてと同じ。

「身を神の意に適ふ聖き活ける祭物となして神に献げよ」身とは身體を云ふ身體も精神も捧げよ、肉體は淸くならぬものと思ふ。然れどもポーロ教ふる所あり、肉體は聖めて神の宮と成し得るなり。吾等若し靈界に立てば身體も自然と淸くなるなり、基督教信者にして活氣なきものあるも之は大なる誤りなり。吾等は智情意を活し然して更に淸むべし是れ神意に叶ふ生活たるなり。

「成すべきこと」之れ道理に叶ふ所乃ち吾々の理想に適當して居る、此世に倣ふ勿れ云々の二節の句を換言せば「此世に同化する勿れ汝等の思想を新にして變化せよ是れ神の意志を驗せん爲なり、其意志は善にして喜ぶべく且完全なり」新生とは全く變化するを云ふ例へば虫の蝶に變ずるが如し。又靑き葉の中に居る虫が

青色に變ずるが如く宗教學校の生徒が只周圍に依りて感化せられ名のみの信者になる如きは決して眞の變化に非ず、ポーロは根本的の變化を實した、虫が蝶に代はる如き根本的變化ありてこそ初めて神の意志は理解せらるゝものなれ。神意を行はんとせば喜び樂しみ吾れに充つ、神の敎は熟し且つ完全なり。之を實驗せんには以上の根本的變化が必ず必要となる。三節の中に「公平」と云ふ句あり、富士山に登るに二合目迄登りて頂上迄登りし樣に曰ふは僞なり信者は各自が受けし惠の量に應じて他の人々に分ち與ふべし。

四節に吾々はキリストにありて一つの身體てある指ても毛ても宜しい各々其の本分を完ふせんと務め

豫言は熱心なる信仰に富める人の成すこと、七節役事、慈善事業の如きもの、九節の愛、僞なき細やかなる愛、十節禮儀、名譽を人に讓づると云ふ意味、十一節日常の事を怠らす

精神は常に燃へつゝある火の如く、神に事へよ、十六節にて眞の謙遜を敎へたり。信者たるものは理想のみ高尙に走りて人を賤むるが如き行爲あるべからず。

最後に五つの質問を出さんに

一、吾々は正しき精神よりキリスト敎を求め居るや
二、キリストの十字架に對して如何なる考を以てるか
三、キリストは如何なる所が敎主なりや
四、活けるキリストに接せし實驗ありや
五、吾は變化しつゝあるか世と同化しつゝあるか又はキリストの敎によりて變化しつゝあるや

キリストの意識に於ける死

大谷虞氏

左の一文は七月十七日大谷先生高話の大意を記せるものにて元より完璧のものには候はず。其の中書き洩らしたる所も少からずと存候此の儀改めて先生及讀者諸姉の御寬恕を願上置候

（渡邊すみ子）

キリスト敎の中心點とも爲す可きは實にキリストの死と云へる一事なり。然れども現今獨逸などに於てキ

リストの死に對する意識を打破する思想起りてキリストの死に關する事柄はポーロ或は他の弟子等の作り出だせし考へに過ぎずとせり。故に今こゝに此問題を解決するに大切なることはキリスト御自身の其死に對する意識を知りて初めて適當なる解釋を施し得るなり。亦主の死は一時の事情に由りて來りしにあらずして永遠の企に由れる死なることも知ることを得べし。

第一、キリストの洗禮には如何なる大切なる意識を示せるか

路加三〇二十一、二十二、
馬可一〇九──十一、
馬太三〇十六、十七、

此記事の中にある天よりの聲とは神よりキリストの心靈にひゞきし聲にして天とは決して空を指せるにあらず神を指せるなり。神の聲に曰、「汝は吾が愛子なり」云々此愛子なる言は舊約中の二つのところより出てしものにてエスの意識を暗示せり（詩篇二〇七イザヤ四十二〇一）詩篇には神の子の權勢を示し以賽亞にはエホバの僕としての痛ましき運命を記せり即ち第一は王の王たる神の子第二は悲しむ可きエホバの僕をあらはせり。此の二つは互に矛盾せる如くなれども之を一人のキリストに結び合せしは以て味ふに足るところあり。實に主は一面に於て王の王たれども亦一面に於ては痛ましき悲哀なる人なりき。尙ほ主の洗禮に付ての意義を曰はんに、洗禮は罪を悔改むるしるしたるなり。然るに罪に關する意識なき主が洗禮を受け給ひしは何ぞや。これ以賽亞五十三〇にある如く主は人の爲に自ら罪を負ひ罪ある者の位置に立て罪人と數へられ給ひし故洗禮を受け給ひしにて此の時より其死に至る迄常に此意識を示し給へるなり。

第二、新郎の譬

馬可二〇十九、二十

主は自らを新郎と呼び其取り去らるゝことを豫言し給へり。これ主の悲しむ可き最後を云へるにて、一般の

人の合ふ可き常の死を指せるにあらざるなり、此場合に於ける主は旭日中天に輝く勢にて主の生涯の春季とも云ふ可きなり然れども此時すでに秋風の吹くことを豫想し給ひしなり。

第三、明白なる意識

馬可八〇三十一、
同　九〇三十一、
馬可十〇三十二、

キリストが明白に己の死に關して語り給ひしは十字架に果て給ふ六ケ月前にてカイザリヤピリピに旅行し給ひし時なり此の時はキリストの死に對する意識はます〲明白となれり、

第四、自らの死に對してエスの有し給ひし意味、

馬可十〇四十九、

若し主が己の死に對して如何なる意味を持ち給ひしかを知らんと欲せば馬可十〇四十五を見よ、以て主は世の義人と稱する者が義の爲に其身命を捨つると大に異なる意味を死に對して有し給へり。

第五、晩餐に於ける新約の血

馬太二十六〇二十六―三十、
馬可十四〇二十―二十六、
路可二十二〇十九以下

新約の血これ主の言葉にして「罪をゆるさんとて」と記せるは其血の意義を表さんとてなり

出埃及記二十四〇八
耶利米亞三十一〇三十一―三十四、

右の二所によりて「新約」の意義を知る可し。出埃及記二十四〇八には宥の血と云ふ意あり即ち神と人との間をなだむる意にして耶利米亞には神と人との間に罪のゆるしに由りて起る新しき關係を示せりキリストが新約の血と云ひ給へるは即ちキリストが血を流し給ふことによりて神と人との間に再び新しき關係を來すことを得ると云ふ義なり。

以上の如き考へを以てキリストのゲッセマネに於ける苦痛の眞意、十字架上に叫び給ひし御言葉を研究せばキリストの死は一般の殉教者或は哲人等と異なる所

ありて大に悲哀の念を起さしむるところあり然りこは聖なる神の子一點の罪知らぬ救主が人の罪故に苦しみ給ひたればなり。實にこは救主の死なり人類に代りて死せしものにて只にポーロ、ペテロ等の生み出せし意識にあらずキリスト自らの意識に於ける死なり。

柏井氏聖書研究第一回

講演要目（七月十五日分）

イエスの義と愛

一、キリストの傳道の初に於て主とせられたるは義なり、

（馬太　五章　六節、二十節、同、六章　三十三節、同　三章　十五節）

舊約聖書より通じて義を説き義務の遂行をすゝむ

（路加、十七章、七節）

二、キリストの義といふ意義は當時のユダヤ人の所謂義と異なる

（馬太　九章　十三節、路加　十八章　九節、羅馬十章　三節）

三、キリスト教の義は愛を含む義なり

（イザヤ　六十三章　一、詩篇　九十八篇　二節　詩篇　三十六篇　六節　七節）

約翰二章カナの婚姻の話は此思想を具體的にあらはすものといふべしキリストの母に對して答ふる處を以てもいかにキリストの個人主義を主張せしかを見るに足る

キリストは如何なる人に對しても義にかなはざるざ行爲は之を拒絕せりと雖も同時に愛をふくまざる義は之を侮蔑せり故にキリストの義は愛を基礎とする處の義なり、

四、キリストは愛を以て義を行へり

他の己に對して其義務を盡さざる時は如何にすべきか（約翰　十三章　濯足の例）

これに三の方法あり

イ、無關係の態度をあらはす、しかも自己が內心に滿足をあたへず

ロ、譴責す、イより稍々まさると雖もその反抗をまぬかれず

ハ、自己の當然すべき以上の事をなす、（羅馬　十二章　二十節）

これを以て最上の方法となす、よりて見ればキリストの十字架はこれに相當するものなり

善、愛、義の關連するものは神をあらはす、眞に善なるものは神なり神の善の人に接してあらはるゝこれ愛なり故に善ならざるものは眞の愛にあらずまた義は神の御心に從ふことなり、

女子靑年會記事

◉昨年の萬國キリスト敎靑年大會を回想して

事巳に一年有餘月を經たれど今日此所に我國各所の女子靑年會を代表せらる愛する姉君と共に一堂に相會して其當時の樣を回想するも亦興味ある事ならんか昨春彼の萬國學生キリスト敎靑年大會の開かれたる時小妹も幸に其末席に列するを得たり。彼の宏壯なる靑年會館に相會せる者其數の幾許なるを知らず是ぞ世界二十五ヶ國の代表者なりしとぞ。各其言語風俗習慣を相異にせるも一堂に相會して共に一ツの父なる神を禮拜し各〻己が國語をもて而して同じ譜に同じ意の讃美歌を歌ひ各〻己が國語もて共に祈り同じくアーメンを合唱しては敢て國を異にせるの惑なくそゞろ神の國の民なるの榮を感謝せざるを得ざりき。世界何れの集會かよく斯かる平和なる愛の團體を造り得るものぞ。實に我萬國學生キリスト敎靑年會は世界の學生をキリストの許に連れ來らんと極力盡力活動せる一大團體なりき。

我等此世の務に於ては種々相異なるもキリストを我等の師と仰ぎキリストを學ばんとする一箇の學生なり、我等キリストの學生相會して一小團體を我國の各地方に造り各團體今や此の中央部に相會して共にキリストを學びまたキリストを世に紹介せん事を計る之また世界的團體の一部の働にあらずや。我等東より西より相會して聖く美はしく樂しき數日を有益に過してペテロの如く「主よ我等此所に居るはよし」と言はんとす

れど主曰く
「汝等徃け徃きて福音を述べ傳へよとさらば吾等主の命じ給ふまゝに徃かん今世は我等の助を得らるゝなり殊に精神上の助け少なき普通の女學校の姉妹方の內に或は暗路に迷はんとせるもの少なきにあらず、此時に當りて彼等に一の望の光を與へ道を示してキリストの學生たらしむるは當に我等がなすべきの急務ならずや而して之世界の同志の友と相共に主に奉仕する所以にあらずや。

東都を辭するに臨みて

市川縫子

◉宮城女學校基督敎女子青年會記事

我が宮城女學校は今より三年前栄はしき彌生空、神の御寵を受けて基督敎女子青年會開かる。此處を以て全會員を分ちて正會員(信者)と準會員(未信者)と名譽會員(卒業生職員)となし正會員の中より此の會の進步發達をはかる爲め役員(會長、副會長、書記、通信書記、會計各々一名)委員には誘導委員(五名)集合委員(三名)睦親會委員(四名)の以上に分擔せり而して誘導委員は未だ入會せざる人々を導き殊に新入學生に對しては親睦會委員と力を合せて其の親切をつくし寄宿舍にありては多くの便宜をはかりて此の會の目的及び主意等を直接間接にあらはして入會せしむ又親睦會委員は每學期一度は生徒間の親密を增す爲め親睦會をひらく。此の會を維持する爲めに一ヶ年拾錢の會費を集む而して夏期講習會に代表者を送る爲めには別に會をひらき、先年は大親睦會をひらきて學校外の信者未信者に入場券を賣り青年會員は種々の編物又は縫ひ物を校內にて賣りて幾分の金圓を得たり今年は音樂會を開きて得たる金を以て講習會に費したり又昨年仙臺育兒院に些か呈したり。

我が青年會にては今年四月までは每月第二の木曜午後三時より四時まで祈禱會を催したりしが別に學校に於て水曜日に祈禱會あるにより信者には却つて二日つゞかばあきる事もあらんとて此の一學期より每月の第二の水曜日には青年會にて引き受け其の日の題を示し司會者をまうけ、之の會に出づる人々は其の題につきて感話或は聖書朗讀等をなす又每學期一度市內の名士を聘して說敎を聞き互に信仰上のたすけを得其の目的は一學期は新入學生の爲め二學期はクリスマス前の準備三學期は卒業生の爲めとして此の如く定めたり。以上は宮城女學校女子青年會の大要を申し述べたるものに候。

さて過日の講習會は實に有益にて私し共は少なからざる決心と勇氣をあたへられ申候猶來年の盛會をのみまつものに御座候、歸校後私し共講習會につらなりしものは大にはたらき少しなりとも學はりし事を傳ていよく〱之のはたらきを盛んにいたし度と一同は神に祈り候

先づは御報知のみかしこ

七月二十四日

田邊ひさ

◉橫濱山手共立女學校青年會報告

當校にては昨年の十月始めて青年會なるものを設けました、未だ生まれ出た許りで此れぞと申す立派な働きも出來ませんが一通りを申上げますと此の會の中に五ツの部を設け其れ〱異なれる働きを致して居りま

青年會
- 傳道部
- 矯風部
- 慈善部
- 祈禱部
- 文學部

各部に部長書記會計各々一名を置き事務を整理せしめ各部會は毎週一回金曜日午後三時より開會致します第一金曜日には傳道部第二矯風部第三慈善部第四祈禱部但し文學部のみは一月一回土曜日午後七時半より開きます。

一月の中に第五度目の金曜の在る時には青年會の大會を開き各部の働きを各書記が報告致します之は大抵一期に一度位の都合に行きます各週木曜日午後三時半より事務執行委員會を開き青年會に就きての凡ての方針を定めます此れには本會會長書記會計並に各部長書記會計都合十八名出席致します校内に一ッの投書箱を設け置き各部の働きに就きての批評奬勵等自由に投書致す樣に成つて居ります箱は本部の書記が此の委員會の時に開く事に定め忠告などあらば委員は喜んで之を受け入れ一同で其策を議決致します。

祈禱部は毎週一回金曜日午後に開會致す外毎週月曜日午前九時より九時半迄の間に開きます

會費は一月分　名譽會員　十　五　錢
　正會員十　錢　准會員　六　錢

會費は本部の會計が之を集め各部毎月の必要なる入費に應じて各會計に渡します

働き

矯風部　病人を見舞ひ之に花及び製品を送ること
　校内の風俗を矯正すること

傳道部　校内及び校外に日曜學校を設け專ら之を傳道部の働きと致して居ります

慈善部　編物裁縫などを致し其の賃金の半額を寄附し之て校内の貧の子供の教育費被服料に充て其他貧民や公私の慈善事業を助けて居ります

祈禱部　祈禱室が設けられてありまして祈り度ことは誰れても黑板に書きしるして置く樣になつて居ります、書記は一週間毎に黑板にかゝれし祈りの題目を寫し置き月曜日朝の祈り會の事に之が爲め熱心に一同で祈ります

信者の方は校内に在る不信者の爲め各々一人〳〵名を擧げて一人が一人のため責任を負ひ特別に祈ります之れは其の人が信者になる迄祈りつゞけます

有志の祈禱會は毎朝八時より半時間開かれ平均十七八名の出席者があります

文學部　開會毎に生徒の父兄を招待し文學に宗教趣味あるものを多く加へ間接にキリスト教を紹介致して居ります、

其の他一期に一度辯士を聘して各部の主意に適當した講話演說を願ふて居ります又各部ては有益な雜誌を取り圖書室に備へて置きます

以上は只今の會の有樣て御座いますがなか〳〵思ふ樣に活動が出來ません、然し神樣の御助けに依り出來得る限りは各々の責任を全ふして御榮を顯はし度いと切に希望して居ります、何卒皆樣も此の未熟なる會を覺

えて御祈り下さる事を御願ひ致します

◉小石川傳導女學校内青年會報告

第三期(五月六月)における會の種類

講話會
經驗會
役員祈禱會
役員協議會
親睦會

會の總數		十四回
内	講話會	五回
	經驗會	二回
	役員祈禱會	四回
	役員協議會	二回
	親睦會	一回
出席者總數		百八十一名
内	正會員總數	百三十五名
五月六月に於ける入會者		二名
	退會者	二名
	永眠されし正會員	一名

右之通り御報告に及び申候也

七月一日

小石川傳道女學校内女子青年會にて

松南種子

九月號卷頭豫告!!!

此の身體を如何にすべき

井深梶之助氏

現代思潮の中最も不健全なるものを求めば疑もなく自殺心中の頻繁なる一事なるべし。華厳の瀑や淺間の山頂も既に古りたり。亡者は其の死場所を撰ぶに汲々として耶馬に沼津に田子の浦に幾多罪過の分子は續々として散布せられむとはする也。何等悲慘の現象ぞや。あゝ「此の肉體を如何にすべき」とは目下の急要問題に非ずや。井深氏の信仰鋭利の筆、能く這般の奥秘を穿ちて一大の光明たらずむばあらず。記者は九月號卷頭の讀物として此の一文を讀者諸姉に推擧するの榮を喜ぶ。

此の外御ミス、マクドナルドの論文を始め次號掲載の分にて既に確定せるもの左の如し。

宗教の撰擇……植村正久
風俗矯正……宮川すみ子
ヘンリッツリ、イブセンの詩……秋田雨雀
報償論と樂天的世界觀……川副櫻喬

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. V. *August, 1908.* *No. 7.*

Headquarters :— 15 Dote Sanbancho, Kojimachi,
Tokyo

明治四十一年八月十五日發行

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN

Vol V. *August, 1908.* *No. 7.*

CONTENTS

東京神田美土代町三秀舍印行